

人吉市まちなかグランドデザイン 推進アクションプラン

令和7年3月
人吉市



アクションプランに込めた想い

人吉市長 松岡 隼人

令和2年7月豪雨災害からの復興に当たって、被災前よりも住み良いまちを創ろうという基本理念のもと、災害から学んだ教訓と、未来への希望を胸に、本市の未来型復興を実現するべく、まちづくりの将来像やビジョンを具体的に示したアクションプランをここに取りまとめたところでございます。

アクションプランは、市民、民間事業者、専門家の皆様、そして行政が一体となり創り上げたワクワクするようなアイデア集であり、持続可能なまちづくりを進めていきたいという皆様の強い想いが込められています。

「住み続けたい」「行ってみたい」「共に楽しみたい」まちの実現に向けて、このアクションプランに基づく、具体的な取組を力強く押し進める覚悟です。

また、このアクションプランは、決して完成されたものではありません。これから皆様と共に議論を積み重ね、新たなアイデアを盛り込みながら、より良いものへと進化させていきましょう。

時の流れと共に常に変化を遂げるこのアクションプランを、より良い人吉の未来を創造するための道標として、公民連携のもと、活力と魅力を高め、良質な暮らしを実現できる未来の人吉を目指し、取組を更に進めてまいります。

人吉復興まちづくりデザイン会議 座長 星野 裕司

令和2年7月から、4年8ヶ月が過ぎようとしています。まずは、被害にあわれた方々や、いまだご不便な暮らしを続けられている方々へ、心よりお見舞いを申し上げます。

一方、少しずつかもしれませんが、復旧や復興が進みはじめています。ここに公開する「人吉市まちなかグランドデザイン推進アクションプラン」も、そのひとつとして、人吉市復興まちづくりデザイン会議や市民の皆様と議論し、まとめたものです。

ポイントは、「つかう」と「つくる」です。今までの公共事業の多くは、「つくる」を先に、後から「つかう」を考えるというものでした。でも例えば「家づくり」だと、「つかう」を具体的に想像しながら、ワクワクして「つくる」を考えるでしょう。このアクションプランが目指しているのは、そのような「まちづくり」です。

「つかう」のはもちろん市民の皆様です。球磨川を眺めながらお茶をする。自ら手入れしている公園で子ども達を集めて遊ぶ。居心地の良い広場に面してなりわいを営む。そして大変な時にはみんなで助け合う。使い方は様々ですが、それらすべてが市民一人一人をまちの主演にするとともに、その積み重ねが安心を育てていくのではないのでしょうか。また、そのような暮らしは、人吉の豊かさをさらに引き出し、来訪者にとっても大きな魅力となるでしょう。

このアクションプランが、これからの人吉をつくっていく確かな手がかりになることを願っています。



はじめに～安心して住み続けられるまちづくり～

P7-

第1章 アクションプランの考え方

- (1) 私たちが描くまちづくりのサイクル
- (2) 更新を前提とするアクションプラン

P11-

第2章 アクションプランの位置付け・経緯

- (1) アクションプランの位置づけ
- (2) アクションプラン策定まで
- (3) 推進体制：地域の人・専門家・行政の意見から具体案へ

P16-

第3章 復興まちづくりの推進方策

- (1) エリア全体の推進方策
 - ①目標・方針・指標
 - ②10拠点エリアを結ぶ水陸の回遊動線
 - ③景観形成
 - ④交通・駐車場・モビリティ
 - ⑤夜間景観
 - ⑥人吉まちなかランドバンク
 - ⑦情報発信
 - ⑧その他公共空間活用・維持管理・スキーム
 - ⑨持続的な地域経営

(2) 10拠点の活かし方と将来イメージ

(→これから個別のTFで具体的に進めていく)

- ①青井阿蘇神社＋球磨川
- ②中川原公園＋大橋
- ③胸川
- ④交流・文化の場(うぐいす温泉周辺)
- ⑤山田川・区画整理(紺屋町)
- ⑥鍛冶屋町通り
- ⑦人吉駅前＋SL
- ⑧城見庭園＋HASSENBA
- ⑨人吉城跡周辺
- ⑩新町

P87-

第4章 アクションプランの実現に向けて

- (1) 社会実験を通じた「つかう」主体と進めるまちづくり
- (2) 社会実験の活用・段階的な進め方
- (3) 目標スケジュール

令和7年3月 人吉市

[問合せ先] 人吉市 復興政策部 復興支援課 代表 0966-22-2111

はじめに～安心して住み続けられるまちづくり～

人吉市では、令和2年7月豪雨からの復旧・復興のため「人吉市復興まちづくり計画」に基づき、球磨川水系流域治水プロジェクトと連動して、安心して住み続けられるまちづくりを進めています。なかでも特に被害が大きかった「まちなか」エリアを対象に、官（行政）と民（民間）が連携してまちの将来の姿を具体化し、実現するために多くの方々と対話を重ねて取りまとめたのがこのアクションプランです。

地域の個を喪失せず人吉らしい姿でありながらも、より豊かな未来をつくるためには、災害から元の姿に戻すのみでなく、暮らしとなりわいの復興のその先を見越したハード

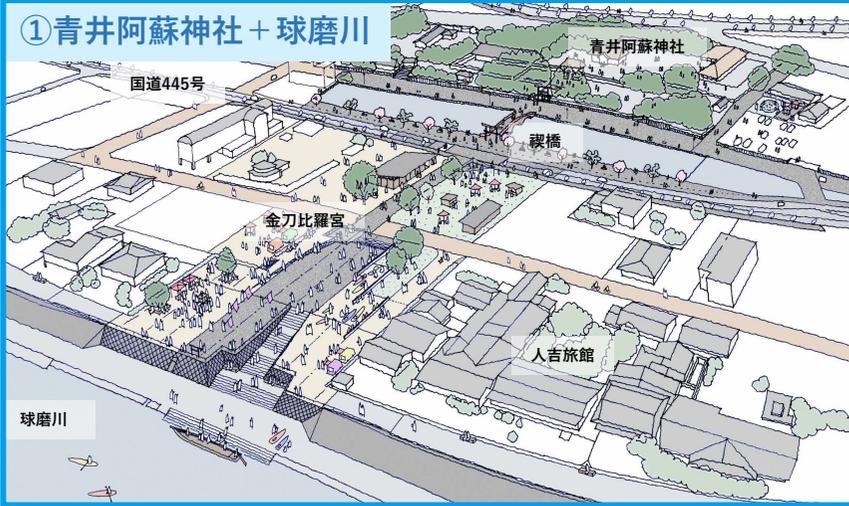
整備や仕組みづくりが重要です。アクションプランの中には、球磨川の恵みや人吉のまちの資源のもとに、人々が憩い、楽しみ、豊かに過ごす将来のまちなかでのシーンが、エリアごとに描かれています。

描かれた将来の姿は、行政だけで実現できるものではなく、これからのまちを担う民間のみなさんとさまざまな取り組みや実験を経て実現できるものです。このアクションプランは、まさに今始まったばかり。これからの取り組みによって内容も更新を重ねます。このアクションプランに、ぜひあなたのアイデアやありたい暮らしの姿を重ねてみてください。

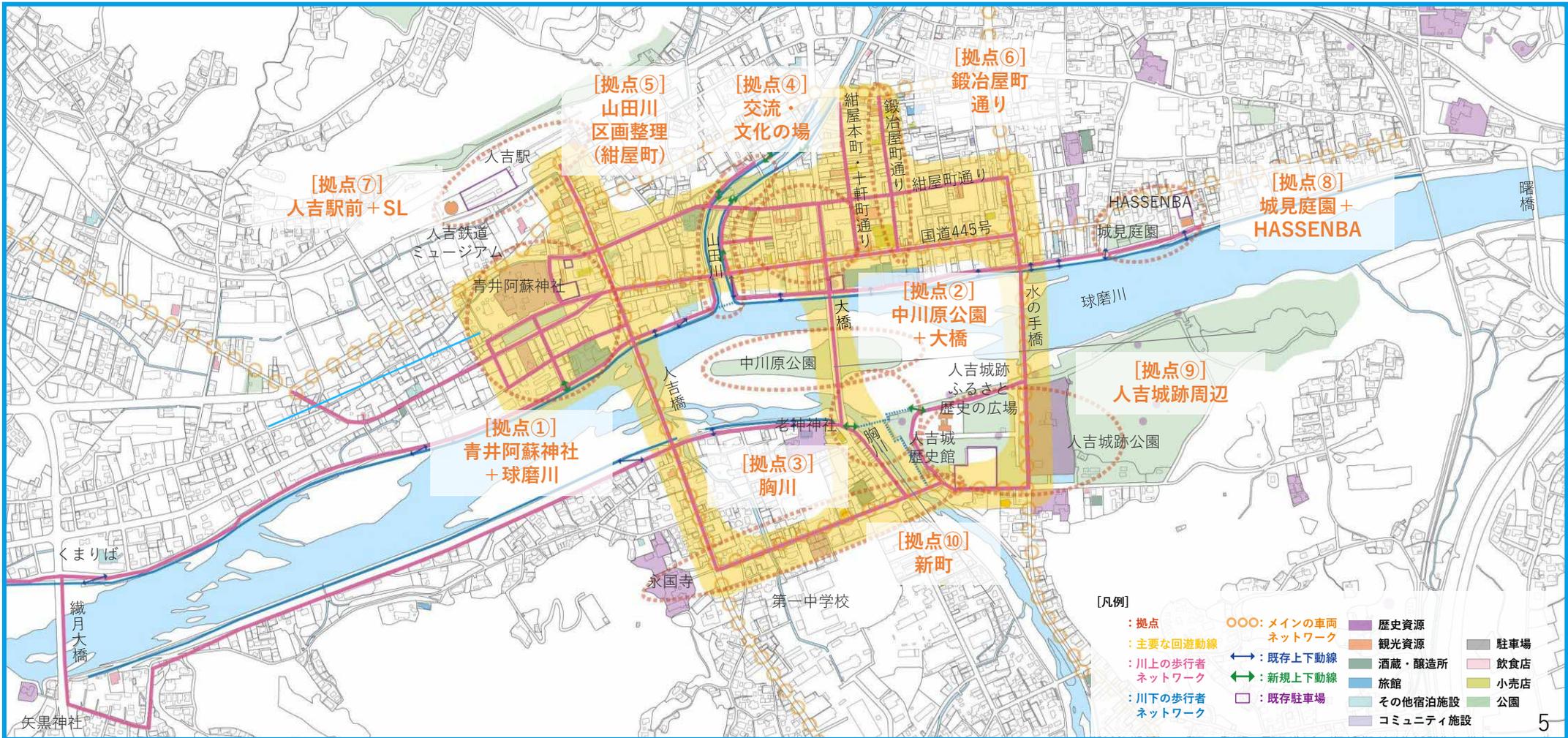
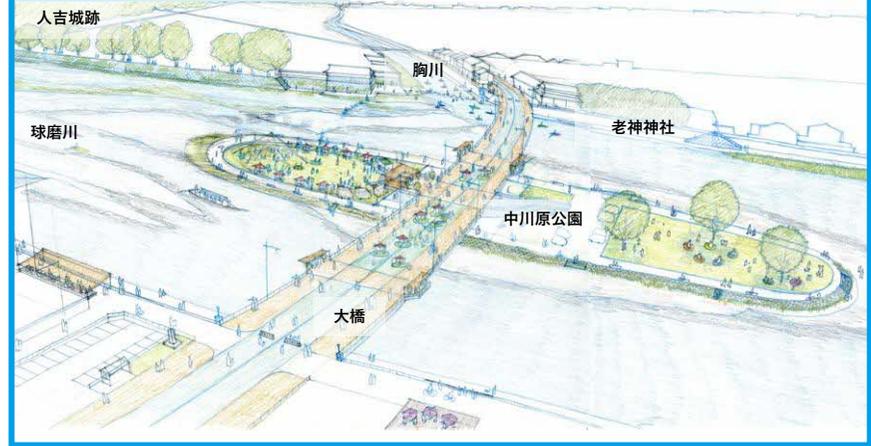


10の 拠点エリアで 実現を目指す シーン

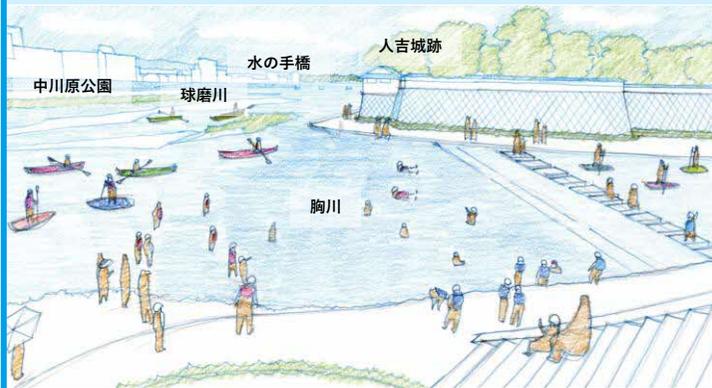
①青井阿蘇神社+球磨川



②中川原公園+大橋



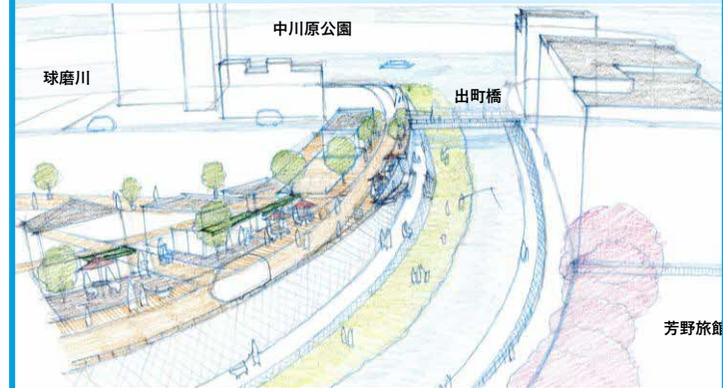
③ 胸川



④ 交流・文化の場 (うぐいす温泉周辺)



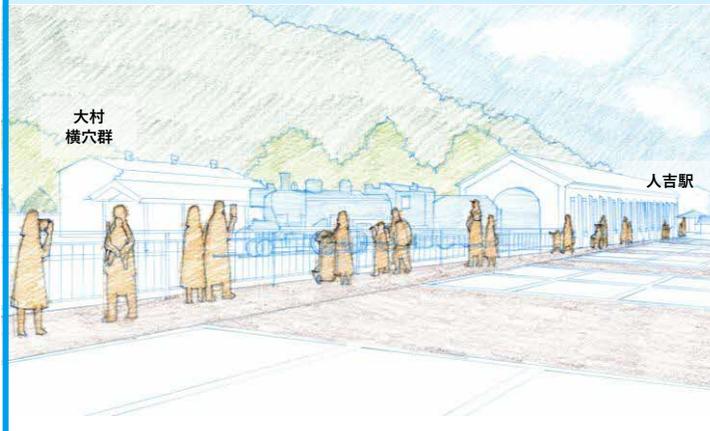
⑤ 山田川・区画整理(紺屋町)



⑥ 鍛冶屋町通り



⑦ 人吉駅前 + SL



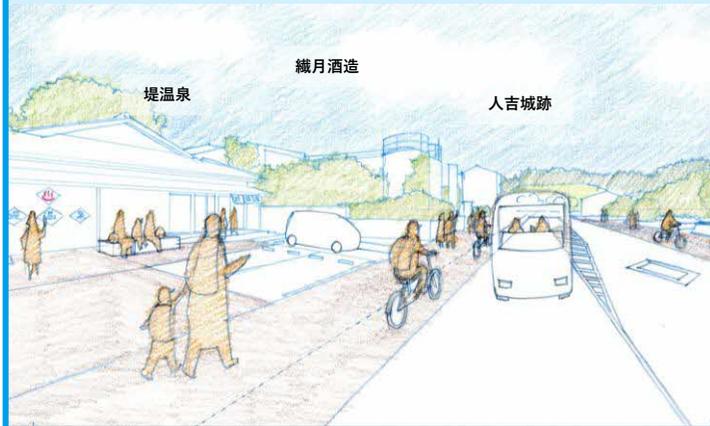
⑧ 城見庭園 + HASSENBA



⑨ 人吉城跡周辺



⑩ 新町





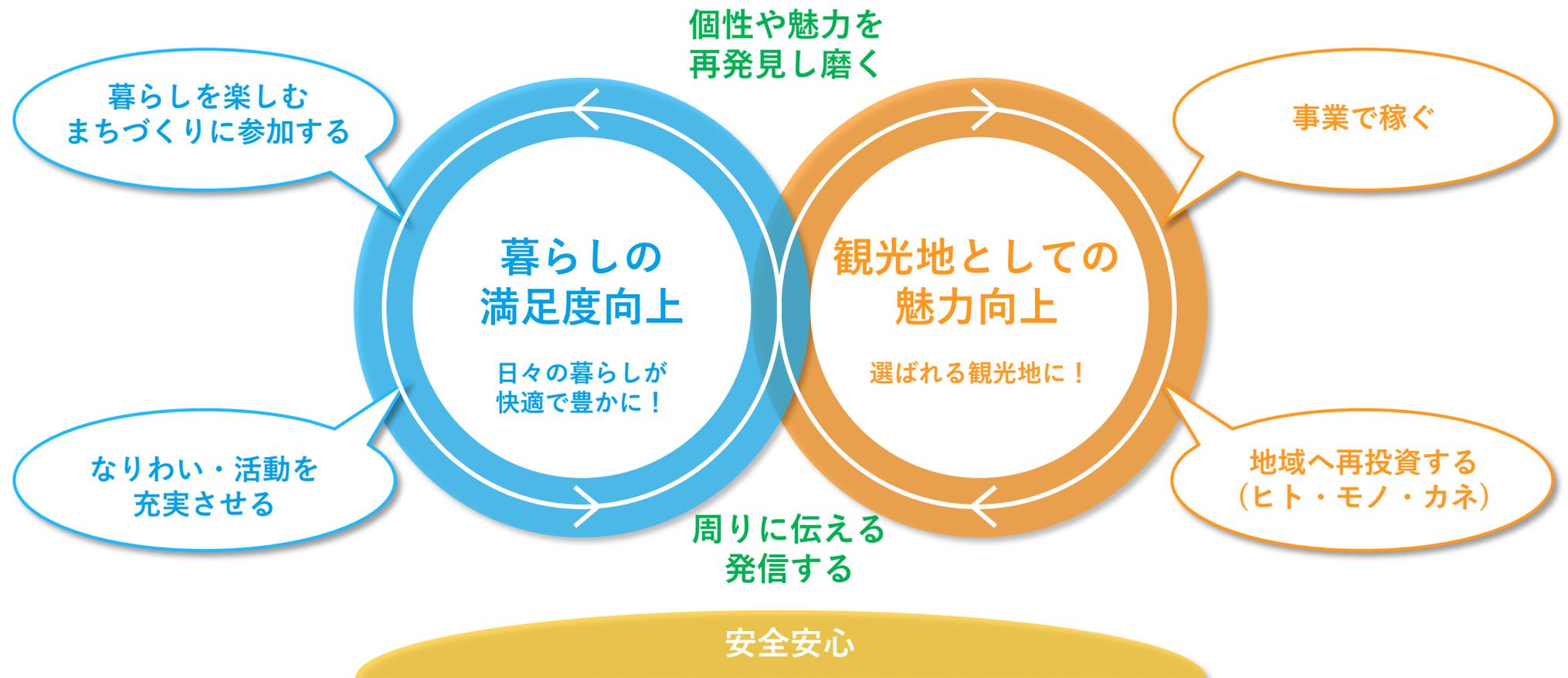
第1章
アクションプランの
考え方

アクションプランを通じた復興まちづくりで目指すのは、暮らす人が「住み続けたい」と思える、市外の人が「行ってみたい」と思える、そして誰もが「共に楽しみたい」と思えるまちになること。そのためには、暮らしの満足度向上と観光地としての魅力向上の両輪が好循環を生み出していくこと

が大切です。魅力あふれる人吉球磨の個性を大切にし、最大限に活かすことで暮らしとなりわいが充実し、地域への再投資が生まれる。そこから育つのが、次世代の子ども達や内外の人吉ファンが関わり続けたいと思える魅力あるまちの姿です。

住み続けたい・行ってみたい・共に楽しみたいまちへ

[目指す両輪サイクル]



清流球磨川の恵み、人吉球磨の個性・魅力

歴史のストーリー、 原風景

様々な生業・産業 との結びつき

流域上下流の 森やまちとのつながり



隠れ里、独自の個性
山に囲まれ急流に遮られた場所
行き止まり文化



国宝
おくんち祭、球磨神楽
保守と進取



郷土料理
ジビエ・鮎・うなぎ



灌漑により農地確保
米、たばこ、茶、栗
かつての基幹産業
多良木という地名



原生林
市房山
森林セラピー



流域
18年連続水質日本一



球磨川・胸川に向く川城
城と城下町をつなぐ中川原
職人町(鍛冶屋町大工町紺屋町)
市が立つまち



日本遺産に認定された
相良700年の歴史



灌漑→豊富な米
→貴重な米の醸造を許可
世界有数の集積度、産地指定



1665年 球磨川開削→八代へ
1910年 球磨川下り開始
ラフティング等川に浮かぶ



人吉盆地一体
相良家



多様な生態系
尺アユ
ゴイツバメシジミ (市房山)
ヤマセミ・カワセミ



人吉球磨に点在する社寺・仏像
既存社寺を壊さず遺した
身近にある重要文化財



全国でも人吉球磨
だけに残る
保存と普及の活動



約50の泉源
湖底層(人吉層)
マイ温泉文化



球磨エリアの中心
飲食店密度日本一



人吉球磨をつなぐ
車窓には球磨川
鉄道ファンの名所



原作：緑川ゆき氏の世界観
人吉球磨を一緒にとらえた
何でもない原風景

民間事業者・市民、専門家、行政のアイデアを重ね合わせる／更新前提のプラン

「アクションプラン」は更新を前提とします。なぜなら、行政のみで実現できる計画ではなく、将来事業や運営を担う主体となる民間事業者・市民が大切であり、また行政の財源によっても実現性は変わるため、アクションプランの内容は

更新が前提で、実現が保証されたものではなく、また、現時点で掲載されていない内容・エリア・テーマ等についても主体や事業・活動の内容が具体化してくれば追加していくものとします。

今回のアクションプランの範囲



更新を前提とする

※アクションプラン3章(2)が該当

これから個別のTFで具体的に進めていく
(行政・地域・民間事業者・専門家など)
(各拠点エリアの民間事業者や活動主体の目途、ハードのデザイン、公共空間運営やルールづくり)
必要に応じて社会実験で検証

※アクションプラン1章・2章・3章(1)が該当

令和7年3月に大きな考え方を共有
(回遊動線・拠点エリア、景観形成、夜間景観、交通、ランドバンク、情報発信、活用スキームなど)

令和6年3月に人吉市が作成



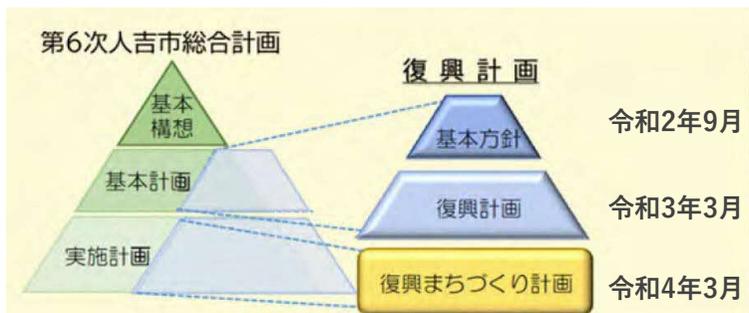
第2章
アクションプランの
位置付け・経緯

「まちなかグランドデザイン推進方針」を具現化するための行動指針

これまでの復興まちづくりは主に行政によるハード整備・復旧事業中心の計画づくりが進められてきました。「まちなかグランドデザイン推進方針」(令和6年3月策定)で描かれる将来像の実現に向けては、これまでの計画を基に、ハード整備後の運営主体・方法・財源等を想定しながら、民間投資と

連動したハード整備と事業化を目指すフェーズに移行する必要があります。本アクションプランは、行政・民間・専門家のアイデアを重ね合わせた“ワクワクする将来の暮らしのアイデア集”であり、「まちなかグランドデザイン推進方針」を具現化するための行動指針です。

[アクションプランの位置づけと役割]

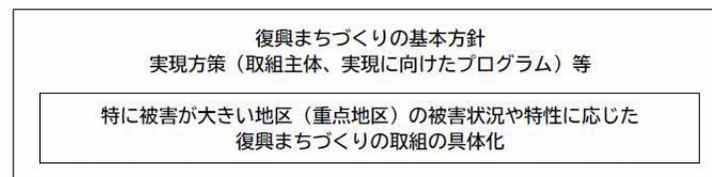


【復興計画における施策体系】

基本方針	復興施策の3つの柱	基本施策
安全・安心な地域づくりに向けた復興	被災者のくらし再建とコミュニティの再生	1 被災者に寄り添った生活支援 2 住まいの再建・確保 3 暮らしを支える生活基盤等の復旧 4 地域コミュニティの再生 5 子ども達に向けた支援
未来への希望につながる復興	力強い地域経済の再生	1 商工業の再生・復興 2 観光の再生・復興 3 農業の再生・復興 4 林業の再生・復興 5 新たな産業や人材・雇用の創出
市民一丸となって取り組む復興	災害に負けないまちづくり	1 災害に強い都市基盤づくり 2 確実な避難を実現する仕組みづくり 3 地域全体で災害に備える体制づくり

(出典:「人吉市復興計画(第1期)」(令和3年3月))

【復興まちづくり計画】



まちなかグランドデザイン(重点3地区)

特に被害の大きかった「まちなか」3地区にて、地区を横断したまちづくりのために策定

令和6年3月

まちなかグランドデザイン推進方針

グランドデザインで定められた方針を早期に具現化し、スピード感のある取組が推進できるよう、「まちなか」が目指す将来像とプロジェクトをわかりやすく更新・明示し、市民、関係者間で共有するもの

令和7年3月

まちなかグランドデザイン推進アクションプラン

グランドデザインで定められた方針に、市民・専門家の想いやアイデアを重ね、具現化していくための具体的なアクションプラン(行動指針)

未来につながるまちづくり

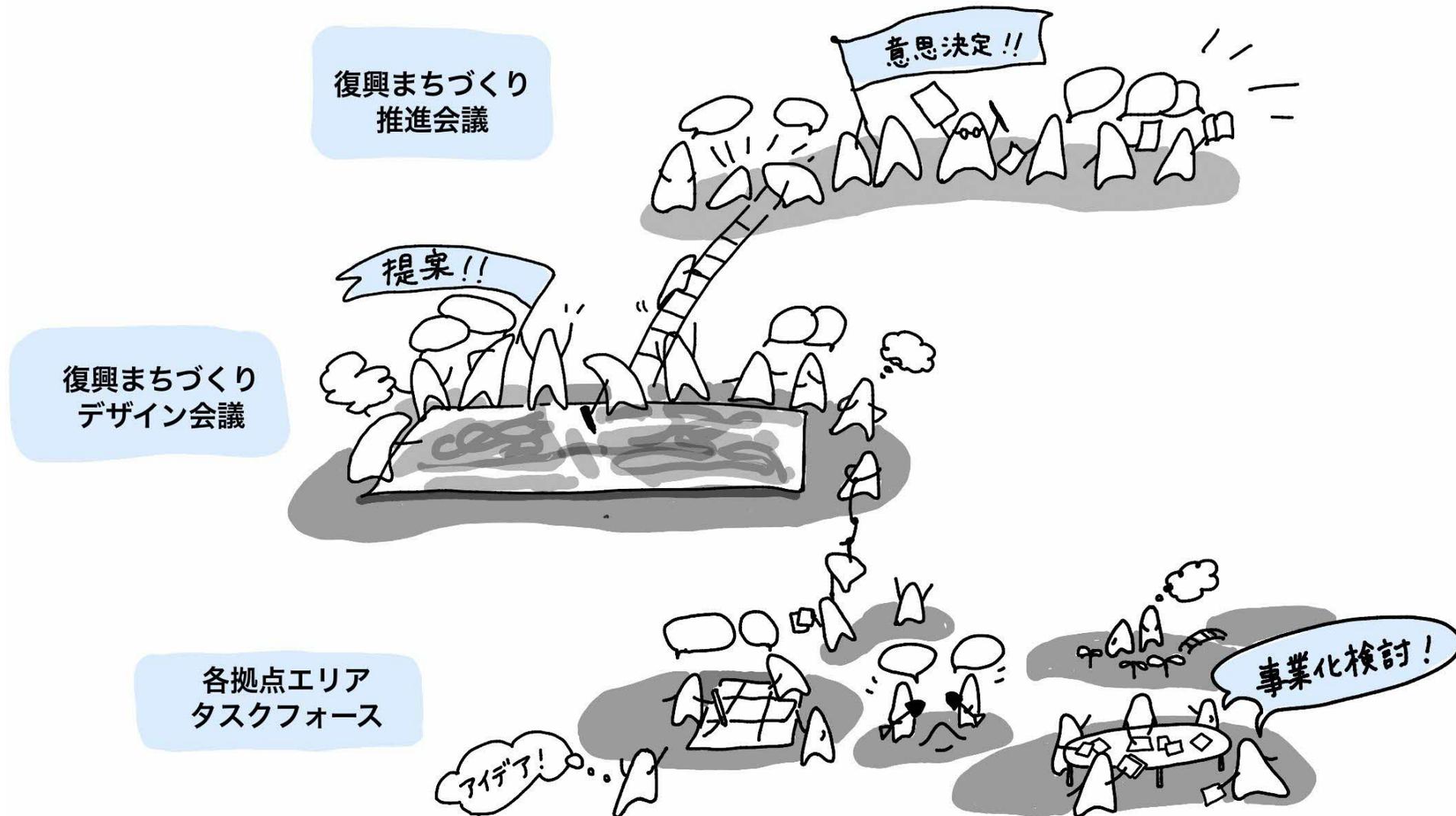
まず最初に、まちなかグランドデザインに描かれている行政のビジョンに、まちの人・事業者、専門家のアイデアや想いを重ね合わせ、令和6年11月にアクションプラン素案をとりまとめました。その後、5エリア全体のまちの人との

意見交換、今後自らやりたいことのある市民・事業者による担い手ワークショップを実施し、来年度社会実験で実施するアイデアをイメージしつつ、過程の議論を反映させて、令和7年3月にアクションプランをとりまとめました。

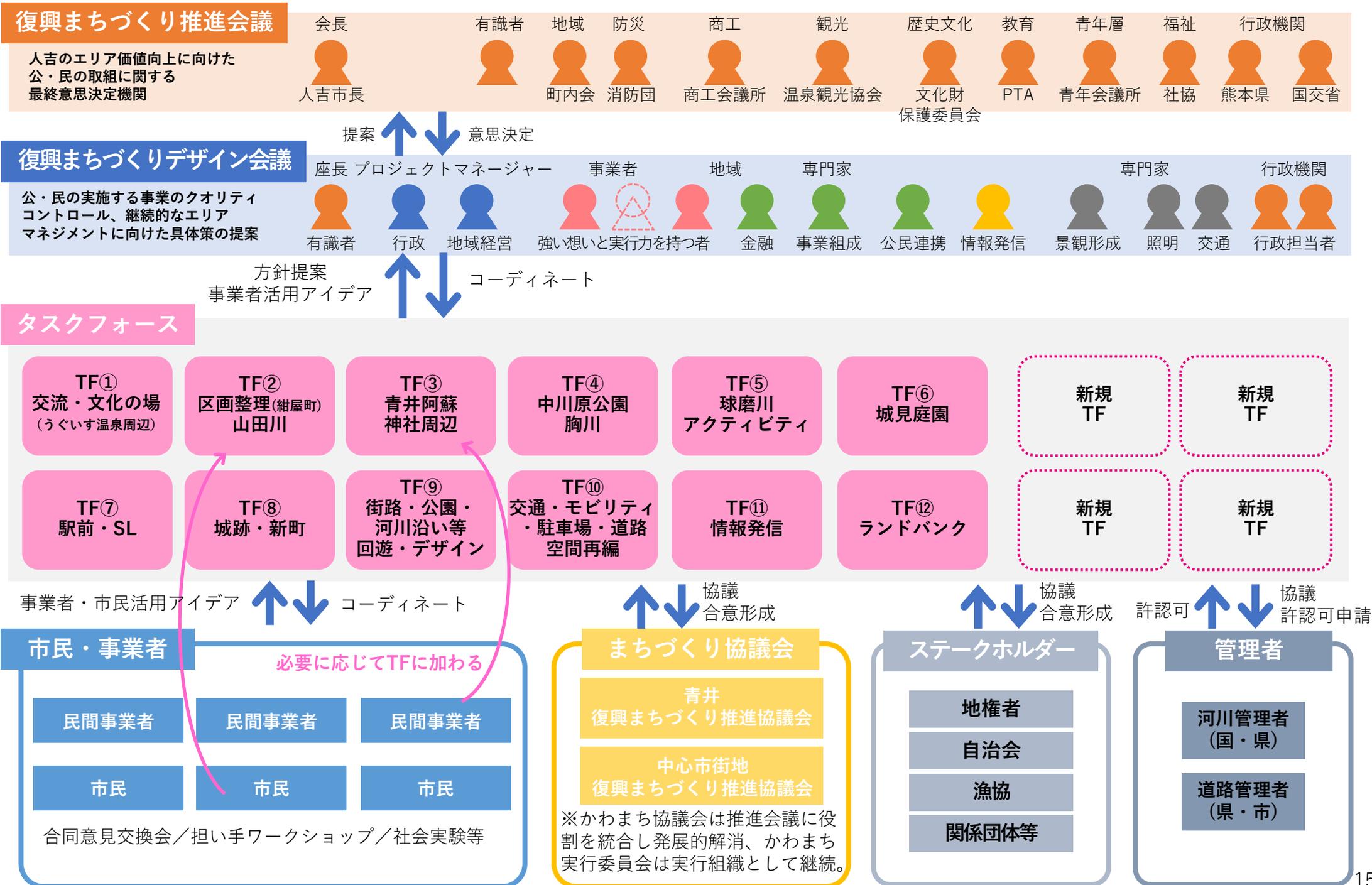


事業者・専門家・行政等によるデザイン会議が、各拠点エリアを中心に具体的な将来像や事業化検討等を行うタスクフォース（TF）と連携して具体策を検討し、意思決定組織である推進会議へ提案を行う体制で進めていきます。

タスクフォースは現状エリアやテーマに応じた12チームが各種検討を進めています。今後、その他のエリアやテーマのプロジェクトが生まれたら、新規タスクフォースを立ち上げることも想定しています。



[推進体制図] 官民連携の推進体制の詳細は下図のとおりです。





**第3章
復興まちづくりの
推進方策**

暮らしの満足度向上と観光地としての魅力向上の両輪によるサイクルを生み出すための目標・方針・指標を下記のように設定します。指標の計測方法は今後検討します。



目標

方針

指標

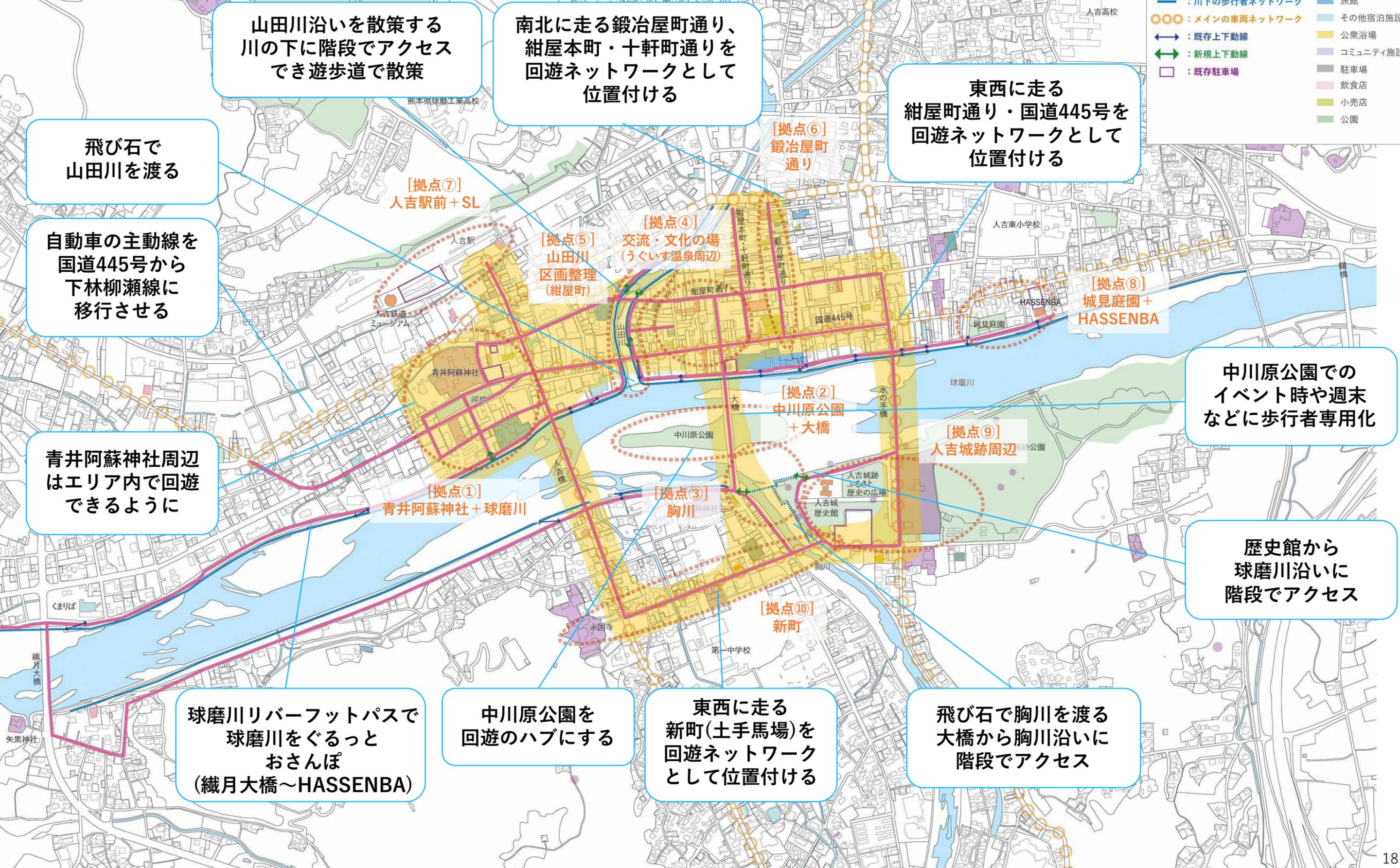
	[1] 清流球磨川との関わり方が充実している	[2] 暮らしの満足度が向上している	[3] 観光地としての魅力が向上している	[4] 市民が復興まちづくりに共感し参加している
	①回遊性の高い河畔フットパス ②中川原公園を滞在・回遊のハブに ③絵になる川沿いの風景を維持し磨く ④アクティビティの充実(季節・時間帯・祭礼時など)	①主要回遊動線の高質化・街並み形成 ②主要拠点エリアの官民連携による事業化 ③空き地の質の向上、流動化の仕組み導入 ④幅広い年代・属性の市民のサードプレイス ⑤地域資源に触れる機会の創出	①地域ブランド再構築を意識した情報発信 ②巡りたくなるアクセスやモビリティ ③絵になる風景の創出 ④文化体験コンテンツの拡充と情報発信の連動 ⑤持続する観光地経営	①市民が復興まちづくりの情報を得られるきっかけと仕組みづくり ②既存市内メディアの連携、市民の発信参加の促進 ③10代の若者の参画機会の創出
	①川沿いの遊歩道・中川原公園の利用者数 ②アクティビティの属性・多様性	①既存事業・活動の充実を含む、新規ビジネスやサービスの数・質 ②市民の愛着醸成・関わり方の多様性カウント	①観光客数(日帰り・宿泊) ②RevPAR ③ブランドとターゲットに応じたメディアへの露出	①事業者や市民、観光客参加型の人吉らしい発信スタイルの盛り上がり ②復興まちづくり事業で生まれた施設・場所における市民発意の取組数

主要な通りを回遊動線に位置づける

川沿いを含む東西の数本の通りと南北の3橋を主要な回遊動線として位置づけ、通りごとの特徴を出し、10の拠点エリアを結びます。

[凡例]

	: 拠点		歴史資源
	: 主要な回遊動線		観光資源
	: 川上の歩行者ネットワーク		酒蔵・醸造所
	: 川下の歩行者ネットワーク		旅館
	: メインの車両ネットワーク		その他宿泊施設
	: 既存上下動線		公衆浴場
	: 新規上下動線		コミュニティ施設
	: 既存駐車場		駐車場
			飲食店
			小売店
			公園



山田川沿いを散策する川の下に階段でアクセスでき遊歩道で散策

南北に走る鍛冶屋町通り、紺屋本町・十軒町通りを回遊ネットワークとして位置付ける

東西に走る紺屋町通り・国道445号を回遊ネットワークとして位置付ける

飛び石で山田川を渡る

自動車の主動線を国道445号から下林柳瀬線に移行させる

青井阿蘇神社周辺はエリア内で回遊できるように

中川原公園でのイベント時や週末などに歩行者専用化

歴史館から球磨川沿いに階段でアクセス

球磨川リバーフットパスで球磨川をぐるっとおさんぽ(織月大橋~HASSENBA)

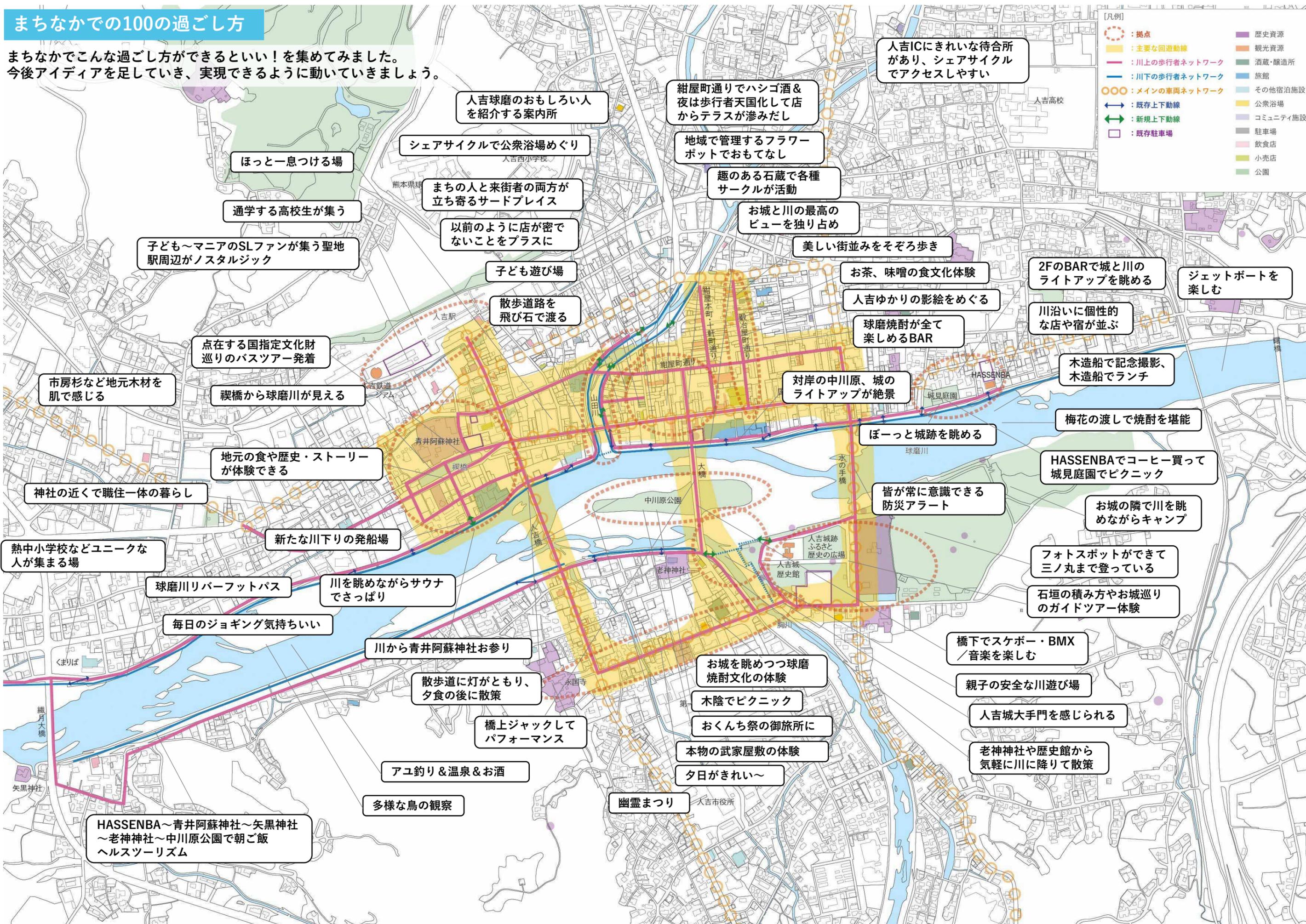
中川原公園を回遊のハブにする

東西に走る新町(土手馬場)を回遊ネットワークとして位置付ける

飛び石で胸川を渡る大橋から胸川沿いに階段でアクセス

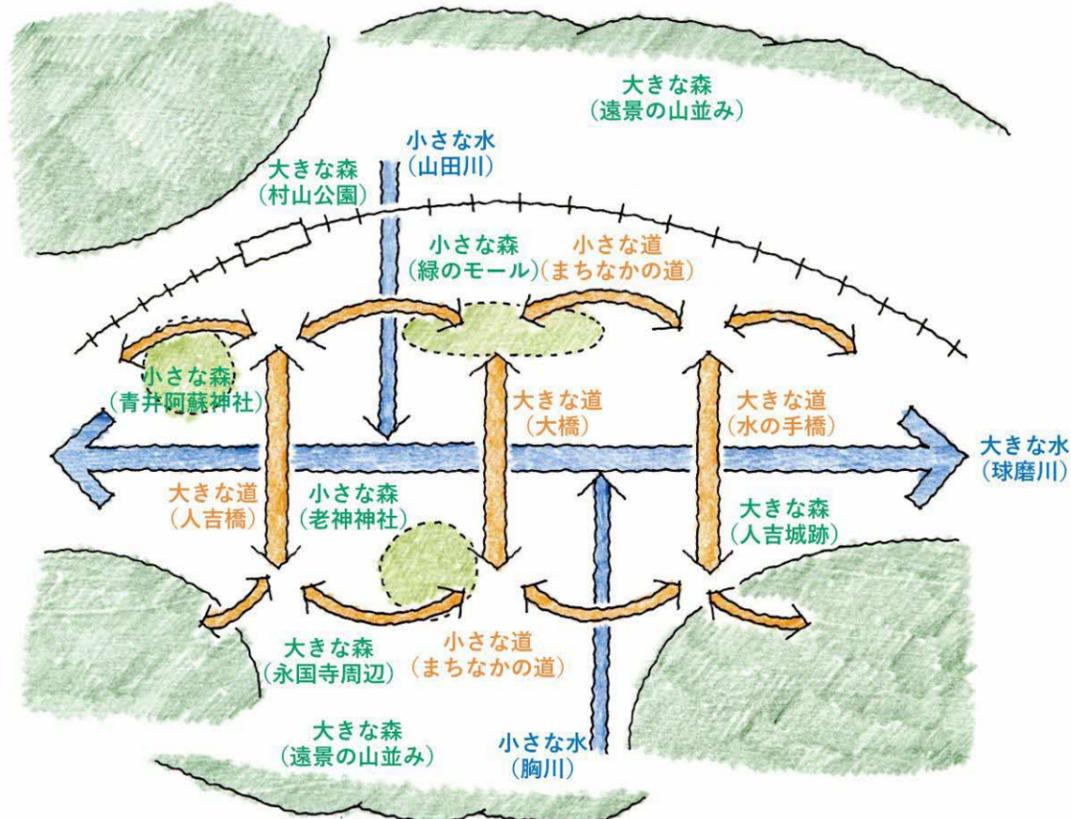
まちなかでの100の過ごし方

まちなかでこんな過ごし方ができるといい！を集めてみました。今後アイデアを足していき、実現できるように動いていきましょう。

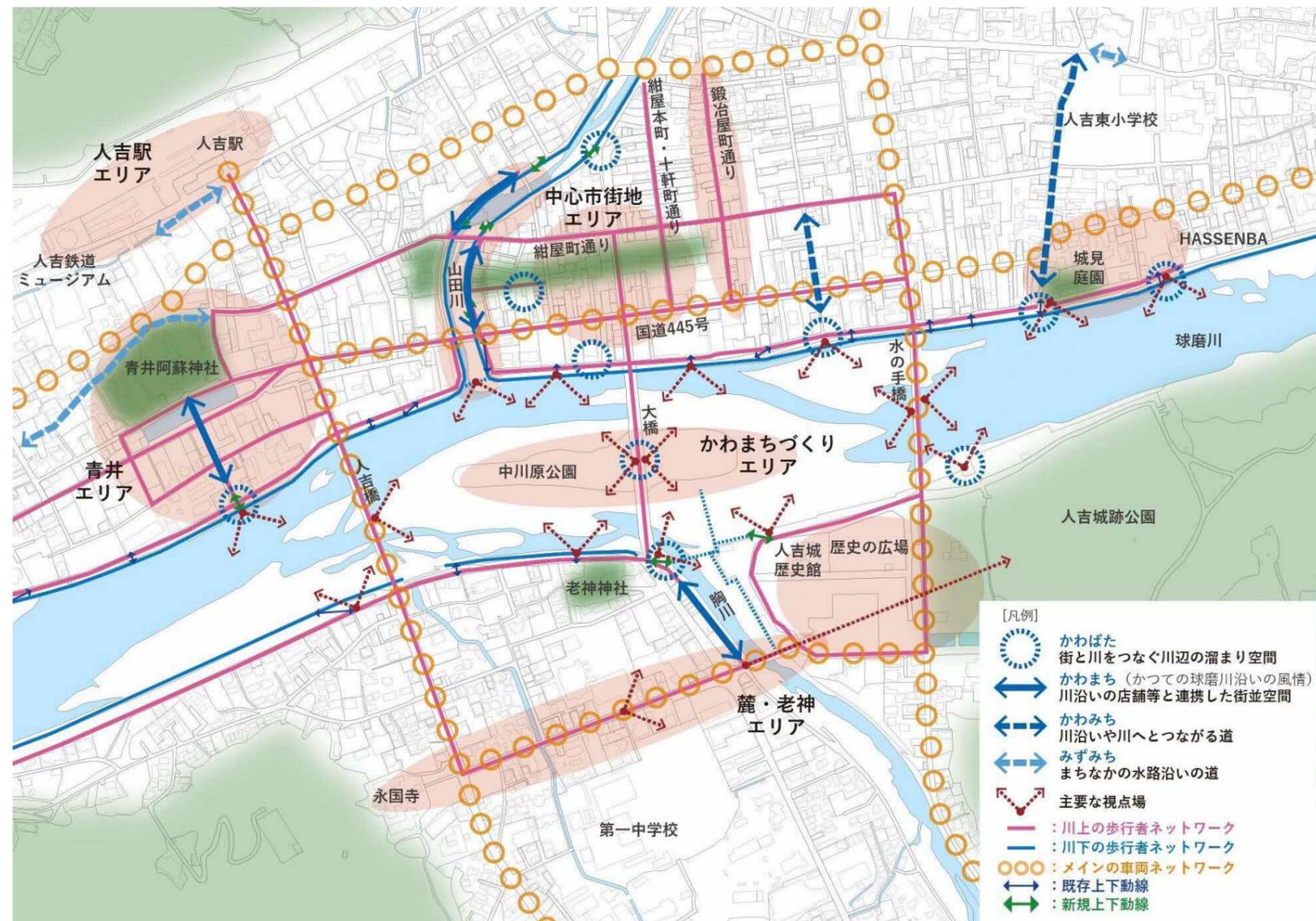


■人吉市街地の景観形成全体の考え方

球磨川を中心とした人吉市街地を構成する大事な要素である「水・森・道」を雄大な範囲のものから歩行範囲のものに分類し、それぞれの特徴を活かすことで、回遊の変化や楽しさを演出します。青井、中心市街地（山田川周辺）、麓・老神、かわまちづくり（中川原公園・城見庭園など）、人吉駅の5つのエリアを中心に、特徴的な水・森・道を活かした、公共と民間が連携する利活用や賑わいづくりを想定した景観形成を行っていきます。



■人吉市街地の景観形成の全体図



■景観形成に向けた各エリアの課題と方向性

■青井エリア



青井エリアは青井阿蘇神社の森という地域の主役があるだけでなく、前面の球磨川、神社周りの石畳や水路など活かすべき資源が多くあります。一方、既存道路によって神社と川沿いや人吉旅館までの動線が分断されており、回遊ルートの再整備が課題です。現在進められている土地区画整理事業に伴い、南北の「かわまち」と回遊動線を連携させることが望めます。

■中心市街地エリア



中心市街地エリアでは空地を活用したコンテナマルシェや新規店舗の軒先活用がみられ、官民が連携した賑わい・回遊づくりが望めます。山田川周辺では既存店舗や区画整理事業の区間で道路のシェアスペース化など川沿いでの利活用を促す整備が望まれ、球磨川沿いでは「かわまち・かわばた」を作る建物もあり、川沿いの建築物のあり方として展開することも考えられます。

■麓・老神エリア



大橋からつながる胸川沿いの店舗・遊歩道を活かした「かわまち」としての魅力向上は重要です。老神エリアには織月酒造や堤温泉もあり、人吉の水や湯の文化を活かしたそぞろ歩きの仕掛けが望めます。

■人吉駅エリア



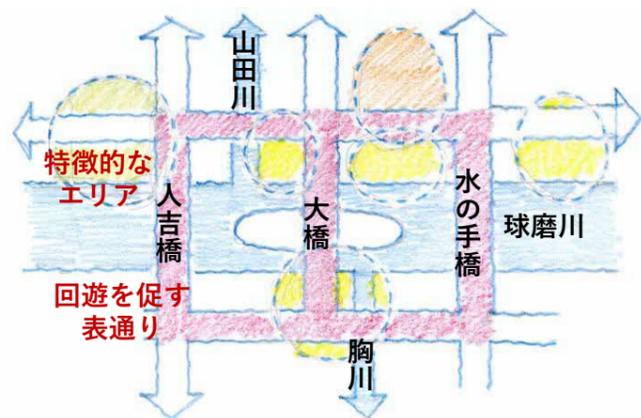
人吉駅エリアの水路は青井エリアともつながる「みずみち」として活かせる資源の一つです。また、人吉ICから人吉橋へつながる車両動線上は、回遊の拠点となる駐車場整備の候補となる場所です。

■かわまちづくりエリア



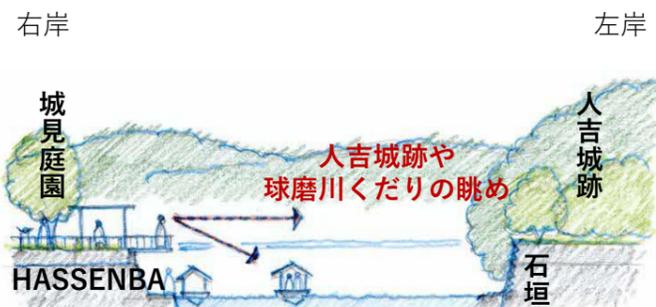
中川原公園や城見庭園周辺のかわまちづくりエリアでは、観光や地域交流の拠点となる場所としての整備が望めます。公園や河川が一体的に利活用できる整備や仕組み作りが求められます。

1 市街地の主要動線と各エリアの視点

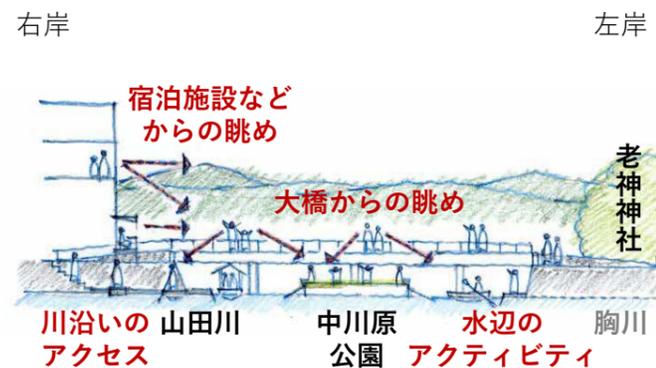


球磨川を中心とした水の手橋から人吉橋までを取り囲む回遊を促す表通りと特徴的なエリアや支川がつながることで、街なか回遊を促します。

2 川沿いの視点



水の手橋より上流の区間
左岸の人吉城跡の石垣や城跡の森を望み、人吉の歴史や球磨川の静けさを感じる区間です。右岸の城見庭園やHASSENBAを主要な視点場とし、落ち着いた雰囲気エリアを目指します。

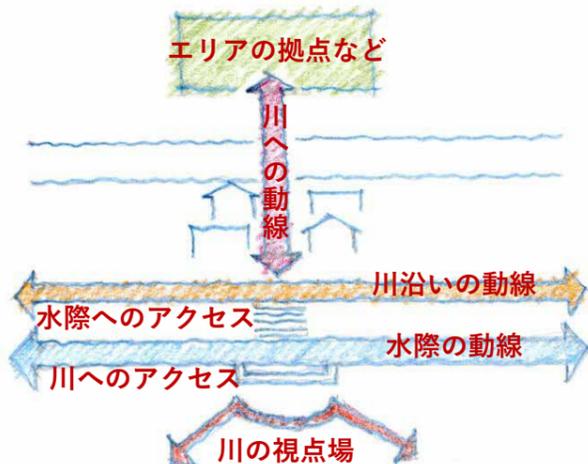


水の手橋から人吉橋の区間
右岸の宿泊施設や店舗から中川原公園や水辺のアクティビティを望み、活動的な球磨川を感じる区間です。山田川や胸川も含めた川沿いの豊かな利活用を促すエリアを目指します。

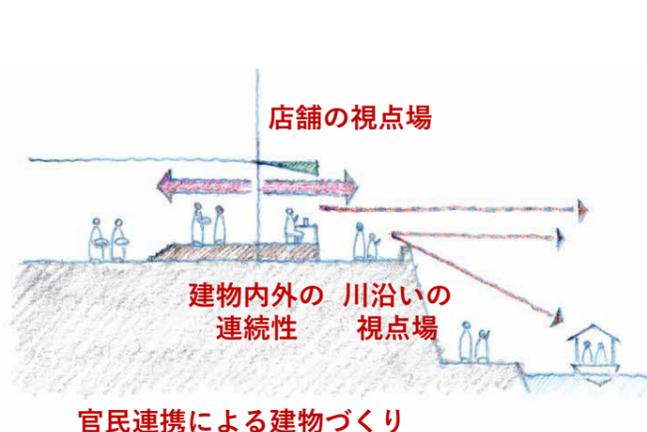


人吉橋より下流の区間
右岸の青井阿蘇神社の森が日常の風景の中で眺められる区間です。川沿いには新たな船着場を設けるなど、青井阿蘇神社と球磨川との結びつきが感じられるエリアを目指します。

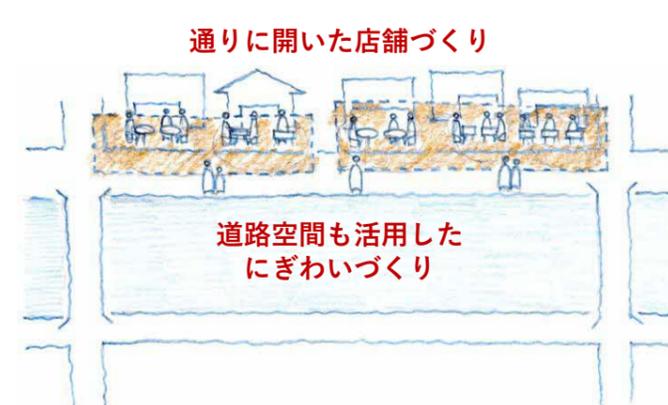
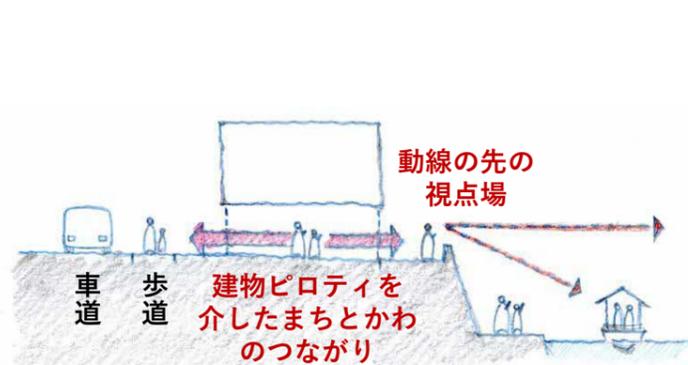
3 川通りの視点 (かわみち・かわばた・かわまち)



街と川との動線強化とアクセスや視点場
各エリアの拠点などから川への動線を強化し、川へのアクセスや視点場を設けることで、人吉らしい街と川とのつながりや関りを創出します。

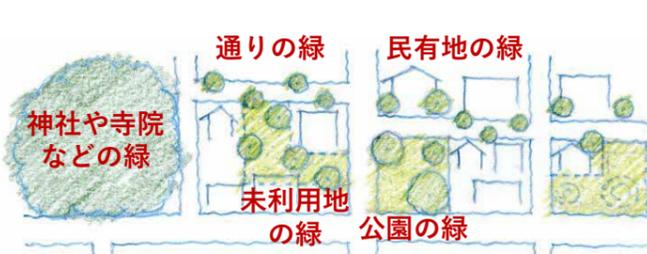


川に開かれた街並みの創出
川沿いの民有地とも連携し、球磨川の風景を活かした宿泊施設や店舗づくりを促します。水害対策としてのピロティ構造は川への視線の抜けや動線としても有効な作り方です。



川通りでのにぎわいの創出
川通りでの店舗などの営みは人吉らしい暮らしのひとつです。飲食などもしやすい道路空間づくりを行い、官民連携で川沿いでのにぎわいの創出を目指します。

4 街なかの森・未利用地の視点



街なかの森の連続
神社や寺院などの既存の森や樹木を緑の拠点とし、新たに整備する公園や通りへの緑の配置や未利用地を含む民有地への植栽を促すことで街なかの森を連続させていきます。



未利用地の景観づくり
行政や民間の未利用地をランドバンクの仕組みを作ることで暫定的活用につなげます。

5 通りの個性の視点

国道445号：青井阿蘇神社から宿泊街、HASSENBAを結ぶ目抜き通りとして、各々の街並みを尊重し、舗装や照明等の一貫した基盤整備を沿道とも連携します。
紺屋町通り：飲食街の通りとして、歩行者を優先し、夜間の歩きやすさも確保します。
鍛冶屋町通り：歴史のある通りとして、趣のある建物の作りを保全・展開し、バンコや小広場を活かします。
紺屋本町・十軒町通り：新旧の飲食店舗が並ぶ通りとして、観光客も訪れやすい基盤整備を沿道とも連携します。
土手馬場(新町)：人吉城跡と永国寺を結ぶ歴史のある通りとして、武家屋敷や酒造等の沿道とも連携します。

6 素材の視点

川城である人吉城跡の石垣を尊重し、球磨川や山田川、中川原公園の河川整備では石積み護岸を用いることで人吉や球磨川の歴史や景観、環境に配慮した素材とします。青井阿蘇神社周辺では、神社の趣を感じられる石畳を公共用地でも使っていきます。



【主な現状・課題】

公共交通

- ◇JR、くま川鉄道ともに運休（バスによる代替輸送）
- ◇まちなかから離れた人吉ICでの高速バス接続
- ◇じゅぐりっと号により人吉駅～人吉IC間を接続しているが高速バスをカバーできていない
- ◇クルマ移動が中心で公共交通の利用者が減少
- ◇バス、タクシーともに運転手が不足

駐車場

- ◇来街者用の駐車場がほとんどない（現状の駐車状況の確認が必要）
- ◇駐車場がどこにあるかわかりにくい

シェアサイクル

- ◇6箇所の宿泊施設にポートを配置
- ◇民間事業としては採算性が厳しく規模縮小（50台10箇所→20台6箇所、30台在庫あり）

交通規制

- ◇全体的にクルマ中心の道路構造
- ◇自転車通行空間が整備されていない
- ◇歩行者・自転車での回遊動線がわかりにくい

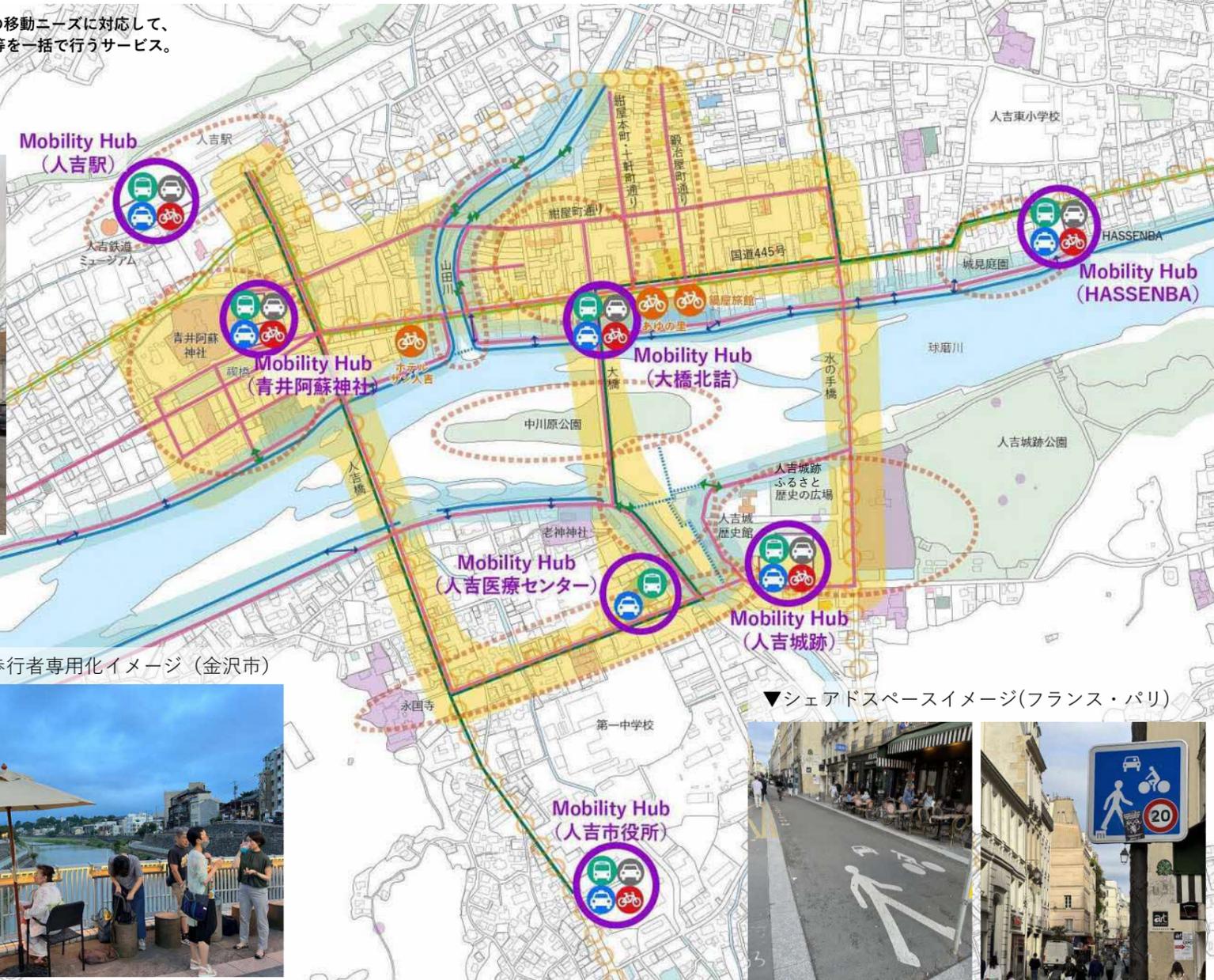
【交通・駐車場・モビリティの考え方】

公共交通を強化・補完し、まちなか各所のアクティビティとモビリティの統合的サービスを図る
～市民生活の利便性と来街者の回遊性を高める「MaaS※」の展開～

- ①各交通モード間の乗り換えをスムーズに行うことができる「モビリティ・ハブ」を要所に整備し、自分のペースでゆっくりとまちなかを回遊・体感できる交通インフラを形成します。
- ②自動運転やAI等の新技术を積極的に取り入れ、時代に応じた交通システムへとアップデートします。
- ③来街者用の駐車場については、将来の需要を想定し、新規確保を検討します。
- ④シェアサイクルについては、既存のリソースの有効活用を前提としながら、公民連携による持続可能な運営方式を検討します。
- ⑤まちなかの回遊動線を充実するため、道路舗装の美装化や歩行空間・自転車通行空間の整備、シェアドスペース等の採用によるクルマの速度低減等を図ります。

※MaaS：Mobility as a Serviceの略。地域住民や旅行者一人一人のトリップ単位での移動ニーズに対応して、複数の公共交通やそれ以外の移動サービスを最適に組み合わせて検索・予約・決済等を一括で行うサービス。

▼モビリティハブイメージ(フランス・ボルドー)



▼大橋の歩行者専用化イメージ(金沢市)



▼シェアドスペースイメージ(フランス・パリ)



人吉市の景観魅力とは

◆球磨川水景

水害直後のアンケートでも多くの市民に愛される球磨川の風景。早朝から夕刻まで多様な表情をもたらすこの大景観こそ最も重要な景観魅力と考えます。

また、人吉城跡、中川原、三橋はその大風景の骨格を作っています。船の行き交う様子、鮎釣り人など川を使いこなす様子もまた風景です。

◆神社仏閣

国宝青井阿蘇神社をはじめ、老神神社、岩屋熊野座神社、永国寺、相良神社など往時のたたずまいをそのままとする歴史的な建築が点在します。それらはまちの回遊性に貢献するランドマークです。

◆人吉城跡

球磨川に浮かぶ城跡石垣は他に類の無い絶景です。日本の百名城に選ばれる人吉城跡と麓エリアは今後も景観価値を高めていくべきエリアです。

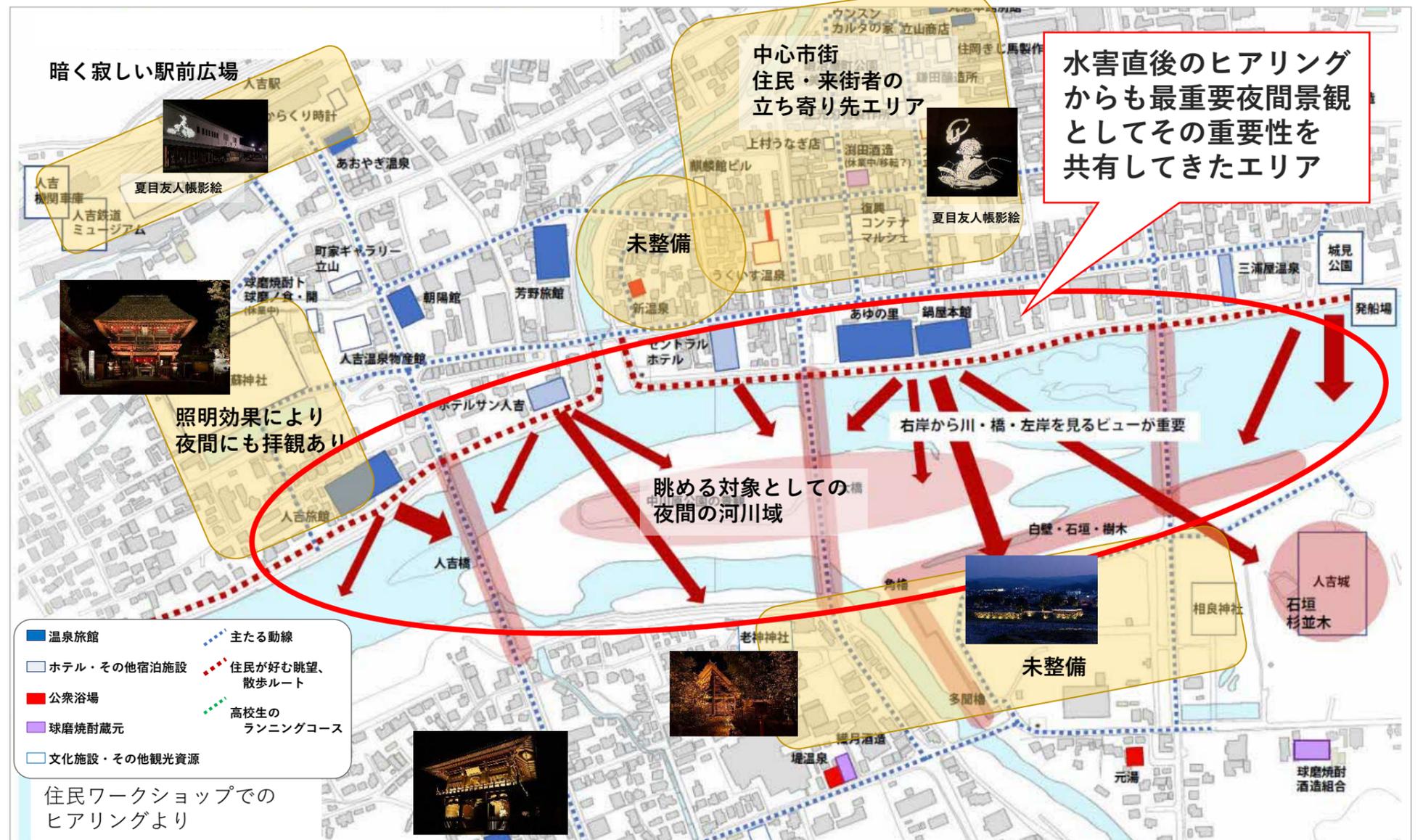
◆まちなか

熊本県を代表する歓楽街である紺屋町通りを中心とするまちなかは、水害で多くを失いましたが新たな事業者や個性的な界限性の創出によって、まちなからしい風景の再生がのぞまれます。また、鍛冶屋町を中心とする歴史風情を感じさせるエリアらしさも重要です。

これらを活かし磨き上げる
夜間景観の創出が望まれます

現況の分析

「球磨川水景」は本プロジェクトの核であり、眺める対象としての価値の磨き上げが必須であると位置づけられてきました。



現況は市内の各所に暗がりも点在し、球磨川水景も誇れる夜間景観として視認できない。



大橋と中川原公園

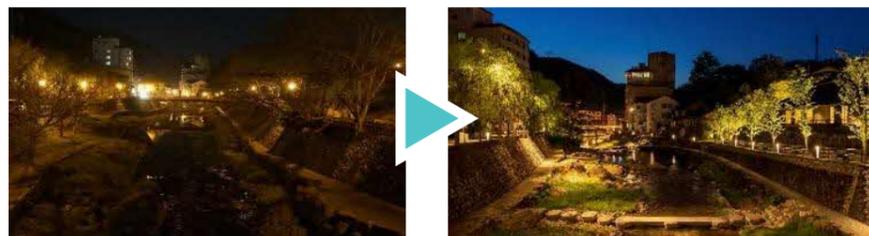
人吉城跡石垣

紺屋町交差点部から鍛冶屋町を見る

重要な民間施設である青井阿蘇神社・老神神社・永国寺はライトアップされているが、景観としてのつながりや視点場の整備が不足している。445号・紺屋町通など道路環境の改善が切望されている箇所も散見され、全域として改善とさらなる磨き上げが必要。

◆暗がり → 安全安心な環境へ

◆闇に沈む水辺 → 眺めて楽しい水辺

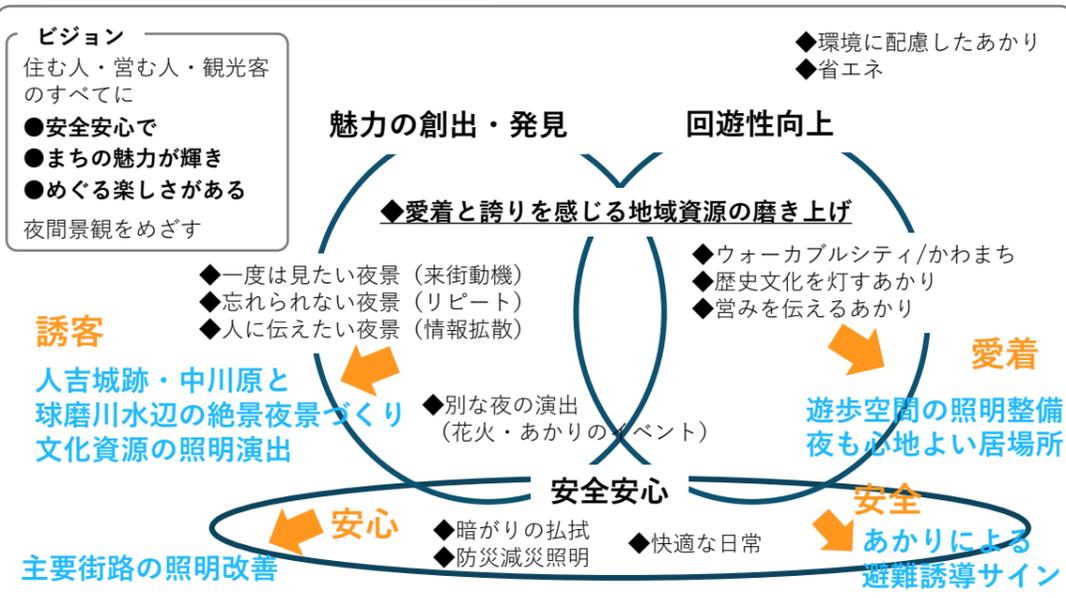


◆ランドマークを活かす・・・回遊性の獲得

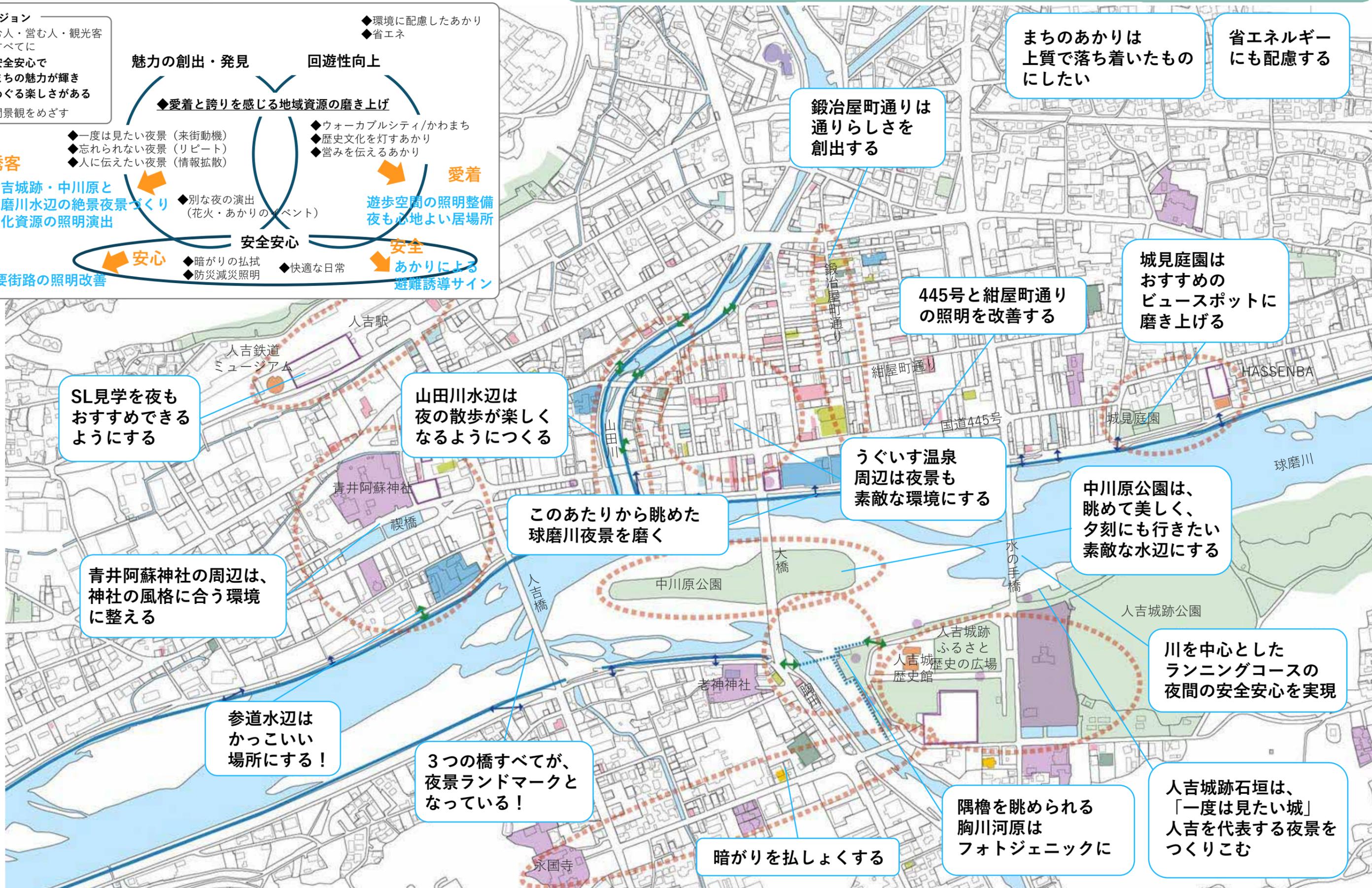
◆エリアの個性を磨く・・・目的地の創出

過ごして良し、眺めて良し、絵になる夜景が点在する、人吉の新たな夜時間の創出

「球磨川夜景」形成の骨子



重点各エリアの照明整備の方向性



青井阿蘇神社周辺

- ①国宝青井阿蘇神社の品格と歴史的価値を感じさせる神社周辺を含む夜間景観形成
- ②河川からの参道の視覚化と、エリアの安全安心の確保
- ③河川域の魅力的な夜間景観形成



人吉駅+SL人吉

- ①SL人吉号を魅力的なランドマークとして演出する
- ②SL設置に伴う駅前広場の魅力化と安全安心の確保



©緑川ゆき・白泉社「夏目友人帳」製作委員会

山田川・区画整理(紺屋町)

- ①散歩が楽しくなる道路空間の創出(建物からの漏れ光も含む)
- ②河川内遊歩道の夜間の安全安心の確保
- ③飛び石や橋は、眺めても渡っても心地よい
- ④紺屋町道路空間の夜間景観改善



鍛冶屋町通り周辺

- ①風情のある街路空間の維持と更新
- ②明るさ感の補強と影絵ストリート

うぐいす温泉周辺

- ①拠点の魅力がにじみ出し、エリアの魅力が高まっているような夜間景観形成。
- ②拠点に至る主要動線や周辺空地等が夜間にも安全安心であること。
- ③紺屋町道路空間の夜間景観改善

各橋梁

- ①手すり照明や橋脚ライトアップなどを行い夜景ランドマークとして活かす
- 大橋(最重要): 道路照明変更・手すり照明
橋脚ライトアップ
手すり照明: 出町橋、二条橋、三条橋、大手橋
橋脚ライトアップ: 人吉橋

城見庭園・HASSENBA

- ①城見庭園・HASSENBAは主要な夜間景観エリア・眺望視点場となる
- ②暗がりを払しょくし、情緒的な陰影のあるエリアとして整える



重点道路

- ①国道445号
- ②紺屋町通り



凡例

- 道路照明新設(重点)
- 道路照明新設(汎用品)
- | ライトアップ
- | ライトアップ(既設)
- | 影絵
- ↓ | ビュー

中川原公園・胸川

- ①球磨川右岸からの最重要夜景エリアであるため「眺めて楽しむ」エリア価値を創出する。(石積み護岸の対岸からの照射も検討)
- ②橋梁・城跡石垣・中川原公園は重要な夜景ランドマーク
- ③中川原公園は夕刻から夜間にも静かな利活用が可能な明るさ感を確保する(橋上からのポールスポットライトによる投光等)



土手馬場(新町)

- ①青井阿蘇神社から人吉城跡をつなぐ主要な回遊ルートとして暗がり払しょくし、夜間の安全・安心の確保



人吉城跡・歴史館

- ①「川に浮かぶ城」としての石垣の通年ライトアップの実施
- ②二の丸三の丸石垣のライトアップ及び、石垣を見えるようにするための樹木の伐採
- ③「眺める夜景の城」としての具体的なライトアップ実施※各地の城は夜間は眺める対象



「人口減少への対応」と「エリア魅力向上」を両立する仕組みづくり

人口減少や空き地の増加は以前より進んでおり、令和2年の水害によりそれらの課題が加速したと言えます。今後さらに人口減少が進み、水害により更地となった空き地や駐車場の土地利用が全て従前のように戻らないという前提にたつと、今回の復興まちづくりにおいては「人口減少への対応」と

「エリア魅力向上」を両立する仕組みづくりが必要となります。その仕組みとして、未利用地の所有(ストック)→利用(フロー)への転換、点在する未利用地暫定活用をセットで実践することが重要と考えられます。

<現状課題>

- ・未利用地の放置／今後も活用されない可能性
- 周辺**の住宅・商業・観光などの環境に悪影響**
- ・過去の災害復興の教訓を活かす
- 原形復旧でなく将来需要適応型へ**
- 生業・経済復興が大切**
- 「つくる」先行でなく「つかう」視点で公民で投資**



<目指す将来像>

- ・所有(ストック)→利用(フロー)への転換
- ・**点在する未利用地の活用、駐車場や緑地の集約化、隣接地一体活用など**

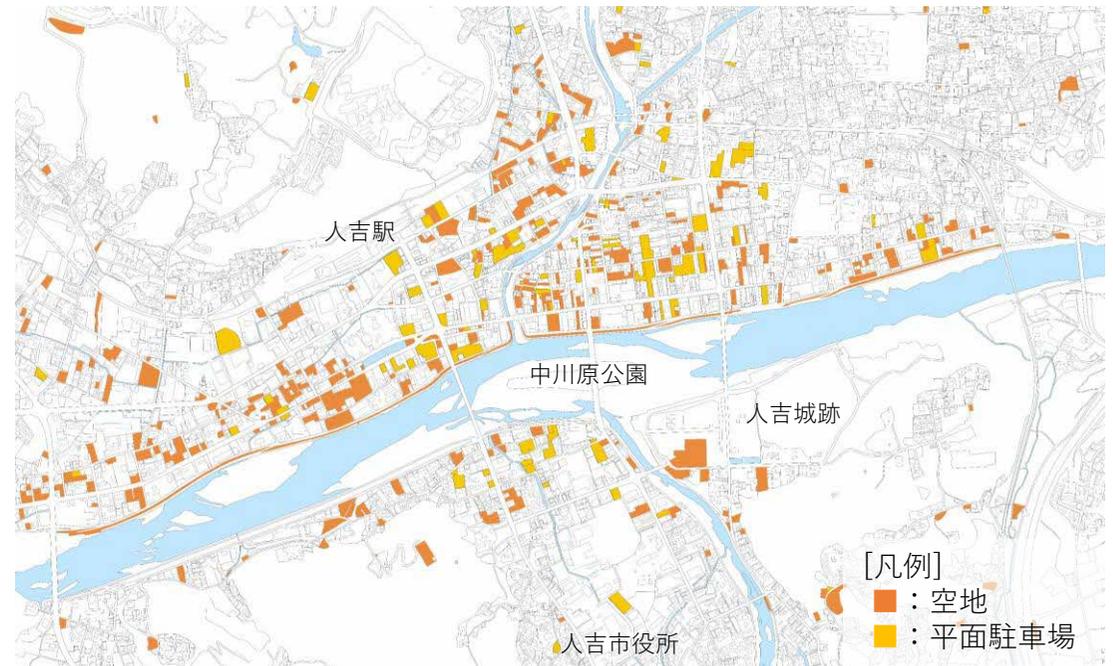
未利用地の「ストック→フロー化」

エリア魅力創出に活用する仕組み

未利用地の流動化
官民による推進の枠組み



暫定活用
(滞留空間・暫定店舗・農地・グリーンインフラ等)

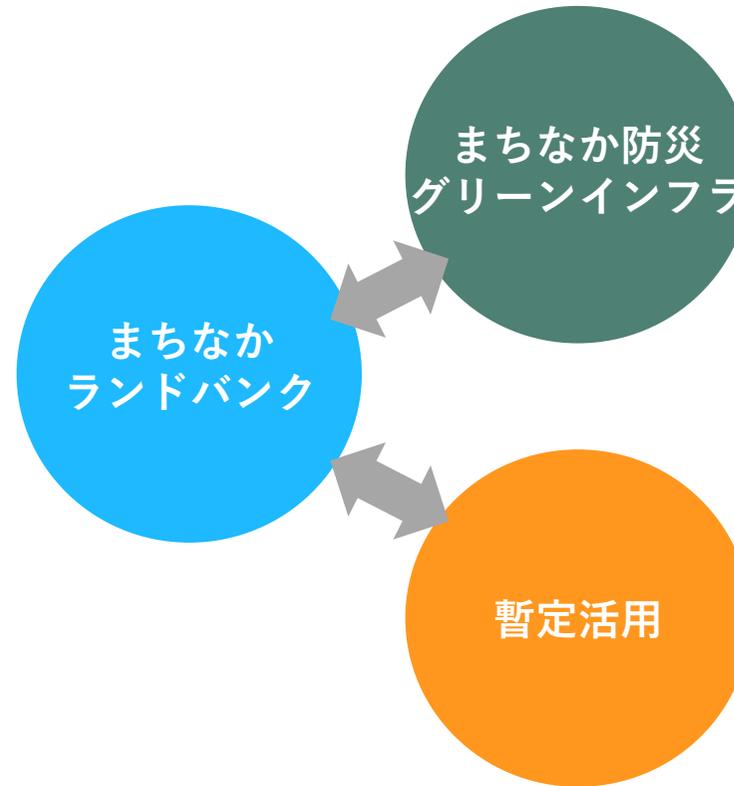
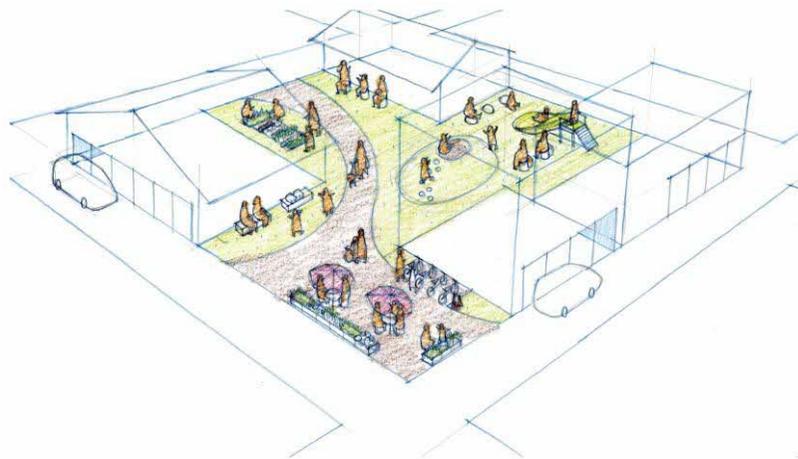


まちなかに点在する空き地 (R5年時点)

「人口減少への対応」と「エリア魅力向上」を両立する
未利用地を「ストック→フロー化」、エリア魅力に活用する仕組み

人吉では、水害後、人口減少の流れもあり以前のようにすべての土地で再建が行われず、空き地として残っている場所が多くみられます。水害前のような密な状況を求めるのではなく、**空き地がある疎な状況であっても、周辺環境を悪化させない、豊かな使われ方に変えていく工夫が求められます。**

そこで、土地所有者と行政、民間の運営団体が連携して、空き地に雑草が生い茂り放置された状況ではなく、**暫定的に子どもの遊び場、グリーンを配した駐車場、期間限定店舗などの市民活用**につなげていきます。



空き地の維持管理・活用の仕組み
(土地利用需要が増えない前提で
エリア価値を維持する)

- ・ 空き地オーナーの意向確認
- ・ 重要な場所を優先的に取り組み
- ・ 借上げ公園のような固定資産税減免等のインセンティブ
- ・ 必要に応じて活用希望者マッチング、提案機能

防災・緑の流域治水に寄与
(空き地の一部をグリーンインフラ
として維持管理)

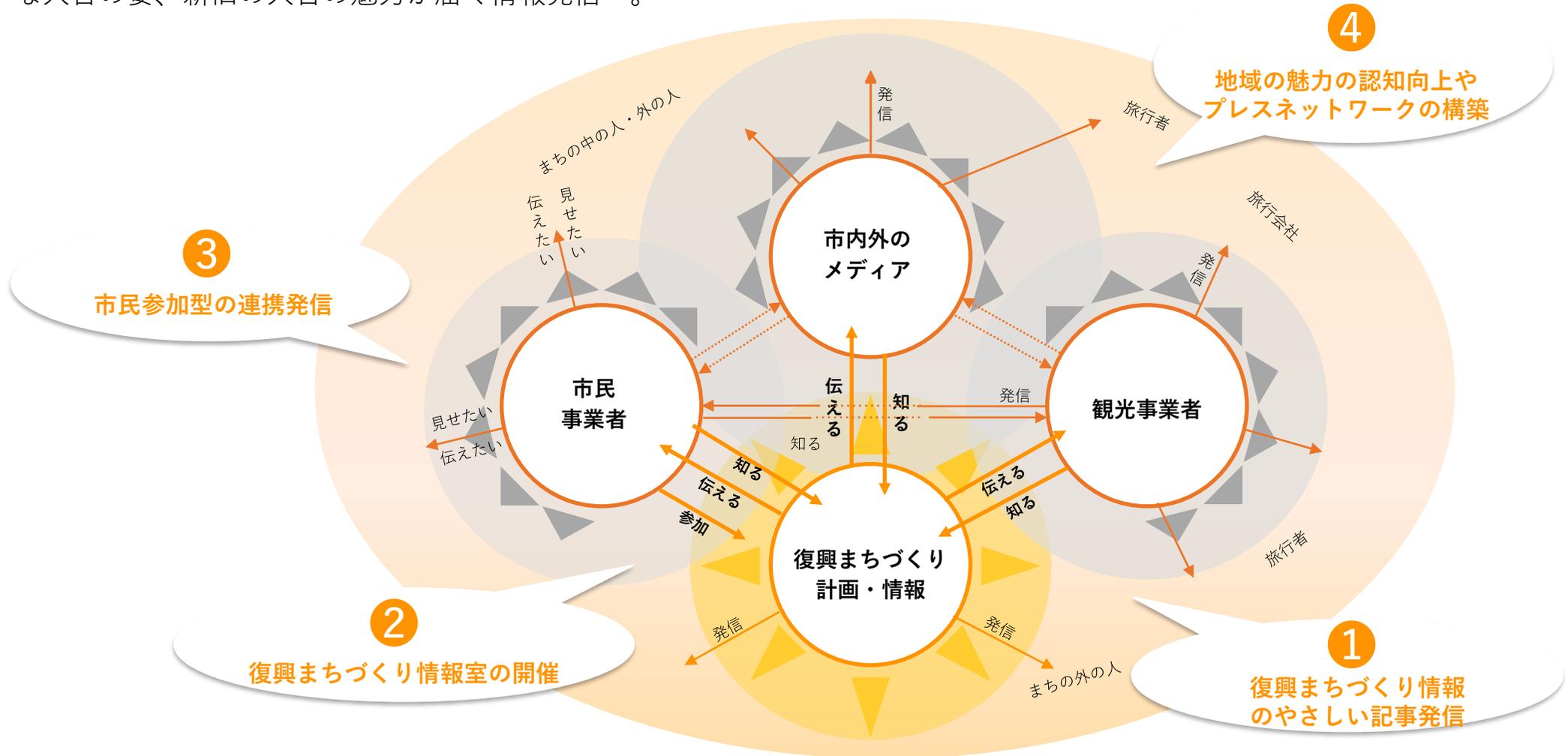
- ①敷地→雨庭 (雨水浸透)
- ②道路・公園の公共施設の雨水浸透
- ③防災 緩衝帯・避難路の確保
- ④カーボンクレジットによる循環

暫定活用
(店舗・滞留空間・農地等)

- ・ 活用希望者マッチング

復興まちづくり情報を共感と愛着につないで 情報の拡大と拡散を生む「まちの発信力を向上するアクション」

復興まちづくりの情報を、メディア、事業者、市民へ共有することで情報の循環を生み、まちの中の人、外の人へ情報が拡散される連携をつくります。まちの人のまちづくりへの参加の機会、まちを楽しむ機会を増やし、まちの外の人へ復興の進む新たな人吉の姿、新旧の人吉の魅力が届く情報発信へ。



まちの内外に届く「復興まちづくり」の情報発信

行政→民間事業者・市民へ共有

民間事業者・市民へ共有→参加と発信

共感と愛着で「まちの発信力」を向上するアクションの仕組み&ステップ

4つのアクションをステップとして情報発信の連携と協働の実現を目指す

仕組み&ステップ

1

復興まちづくり情報の
やさしい記事発信

行政広報における「見つけづらさ」「分かりづらさ」の解決に取り組む、広い層が読みやすいやさしい記事発信を行う。

仕組み&ステップ

2

復興まちづくり情報室
の開催

復興まちづくりの情報を共有したい行政、知りたい事業者や市民、発信したいメディアなどが会し、情報交換と連携発信を生み出す場所にとられないサロンの場づくり。

仕組み&ステップ

3

市民参加型の連携発信

市内で活動するメディアや事業者発信・個人発信のSNSと連携発信を起こすことで、まちの発信総力を高める。多くのメディアやアカウントが活動する人吉市の強みを活かす。
情報共有によって、市内発信プレイヤーと連携する。情報接触機会を増やし、来訪者による発信や双方の循環を促す。

仕組み&ステップ

4

地域の魅力の認知向上や
プレスネットワークの構築

発信循環の中で生まれる地域の魅力を可視化し、イメージの定着を目指した長期広報計画に取り組む。
プレスネットワークの構築と、適切な情報発信の継続から、認知向上に長期的に取り組めます。

まちへの愛着とまちのイメージ
を高める循環を育てる



復興まちづくりの情報発信はこちらから！

人吉市復興まちづくりデザイン会議公式



Instagram



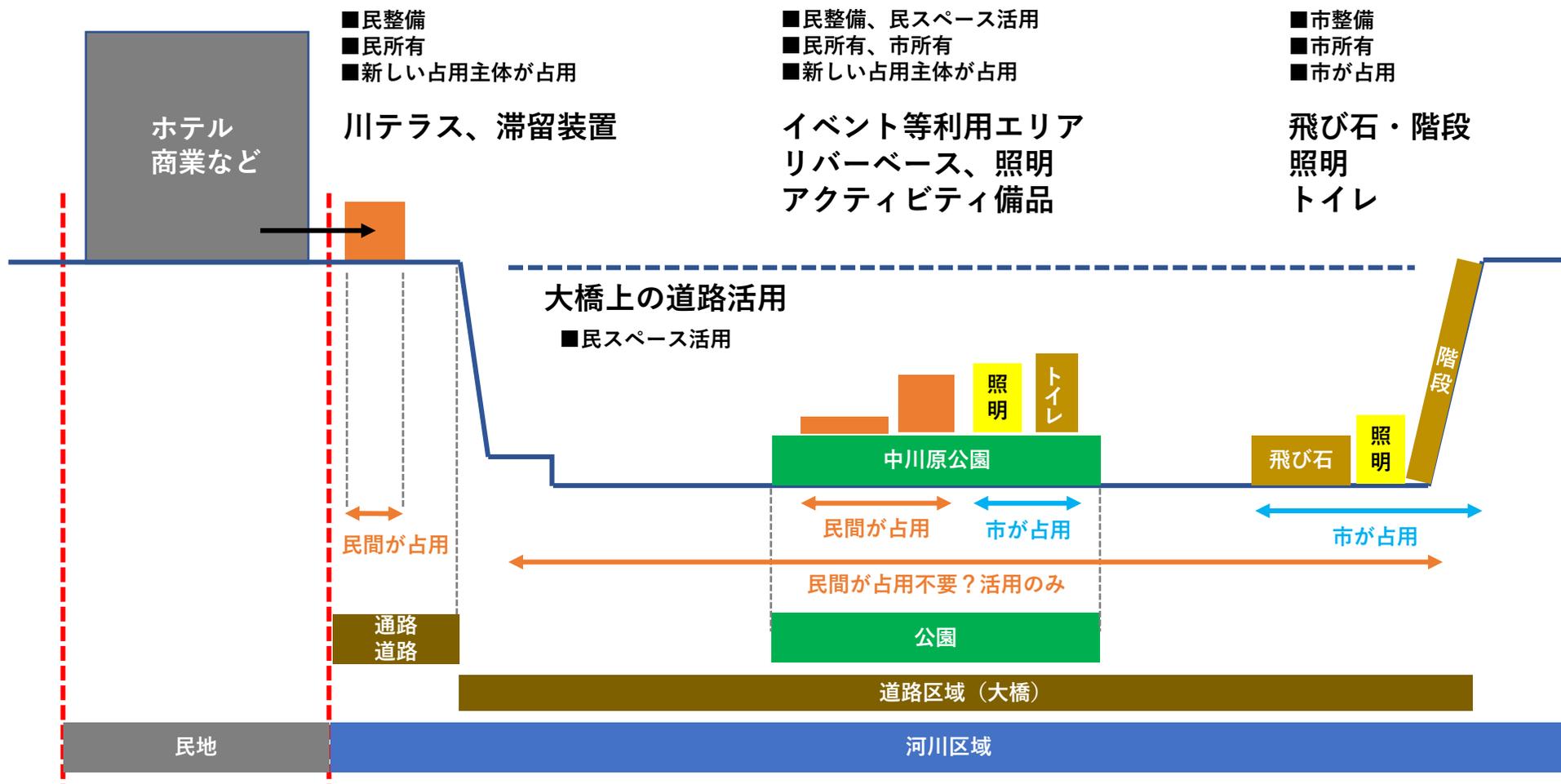
X



note

河川区域・公園区域・道路区域の占用スキーム (案)

- ・河川区域・公園区域・道路区域における、整備主体・所有主体・占用主体は以下のイメージです。
- ・河川→都市・地域再生等利用区域、公園→指定管理または設置許可、道路→道路協力団体、などの特例制度を活用し、区域区分を超えて一括してひとつの主体が占用して運営管理できる方法を検討します。



「担い手」と「財源」の確保

持続的な地域経営に向け、地域住民・関係人口、観光客、働き手のそれぞれの共感や満足度を高めるため、以下の3つの要素に取り組みます。主体としては、関係する既存組織の役割や対象エリア、各々の経営資源を確認しつつ、必要に応じて新たな財源や担い手の検討を行います。

地域経営の3つの要素

地域住民
関係人口
の共感・参画



観光戦略
づくり

- ・戦略立案、事業推進
- ・エリアマーケティング
- ・対観光客情報発信
- ・コンテンツ企画

観光客
の満足



不動産・
公共空間運営

- ・不動産事業
(空物件活用)
- ・公共空間運営
(河川道路公園)
- ・事業者誘致
- ・駐車場運営

働き手
の満足



事業環境
づくり

- ・地域事業者支援
- ・働く魅力づくり
- ・地域循環の促進

景観・歴史・文化を維持発展する景観ガイドライン検討

地域の誇る「球磨川の景観」「まちの歴史と文化」を維持し発展させていくために、既存の景観計画やガイドライン等との整合を図りつつ、以下のガイドライン策定を検討します。

景観ガイドライン			夜間景観 ガイドライン
①川への 視線の抜け	②川への 視点場	③街並み	公共照明の設置に 関するルール
対象： 川に面した建物 エリア指定	対象： 川・城・中川原など を見渡せるポイント 周辺	対象： 主要回遊動線沿い 建物 エリア指定	対象： 道路照明 広場公園照明
民間	公共・民間	民間	公共
例) ・川沿いに面した建物 の1階を川への視線 が抜けるように工夫 ・眺望景観のルール	例) ・眺望を確保、 引き立てる設え ・佇めるような設え	例) ・建物形状/素材/ ファサード ・照明/看板/色彩/ 緑などの統一	例) ・道路照明のルール ・広場/公園照明の考え方

まちなかの価値を伝えるサイン計画・整備

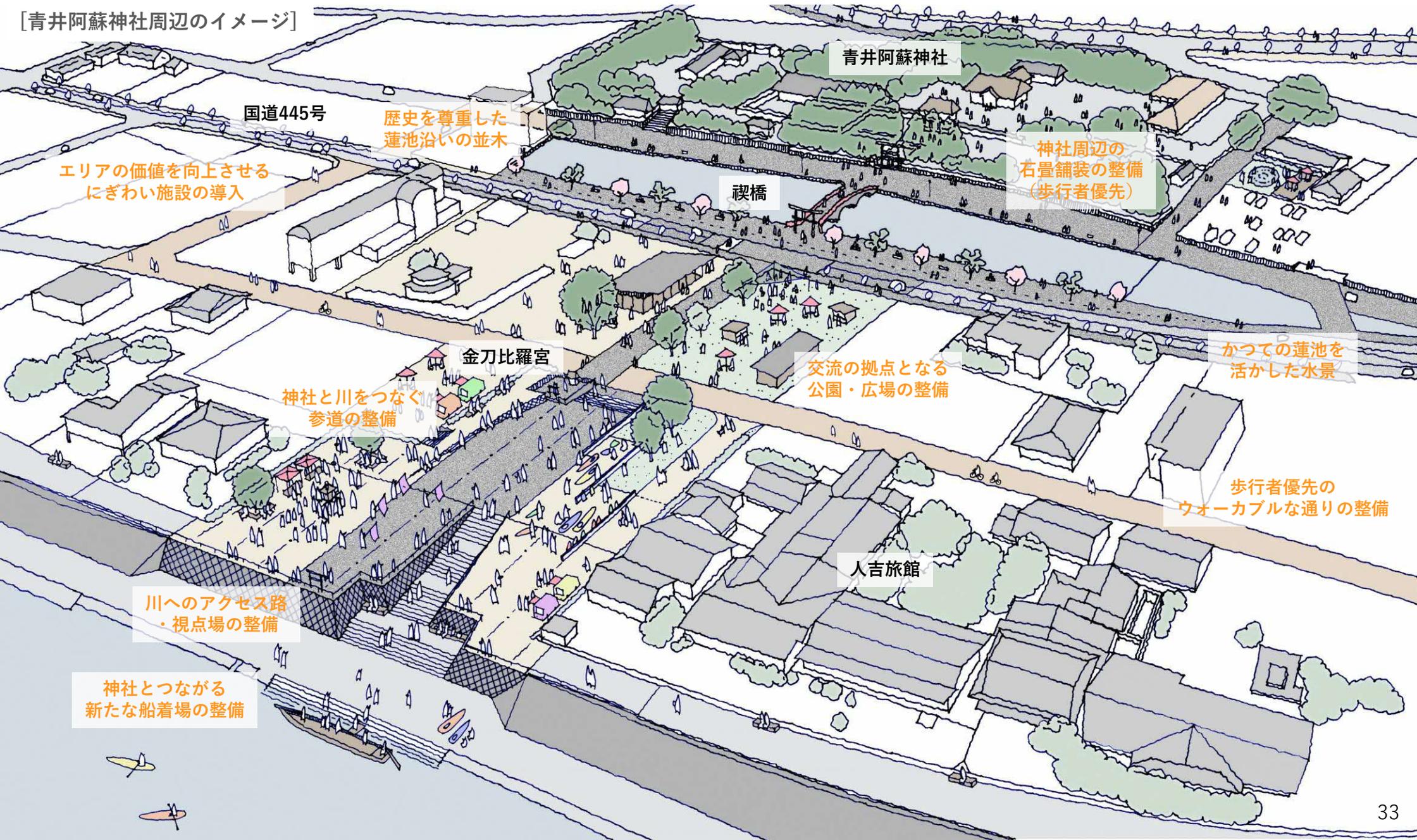
まちなかの情報を適切に伝え案内するための統一感あるサインについて、以下のプロセスで計画、整備を行います。

- ①まちなかの既存サインの現状／課題の把握
- ②課題等への対応、まちなかのサインに関する基本方針作成
- ③基本方針に基づき、配置計画、表示計画、意匠計画作成

- ・人吉球磨に残る数々の歴史的建造物の代表であり、人吉球磨地域住民の心の拠り所である青井阿蘇神社と連携し、人吉球磨に点在する歴史的建造物や相良三十三観音、日本遺産をつなぐ拠点としての機能を強化します。

- ・青井阿蘇神社周辺では、歴史性を活かした石畳を参道から球磨川まで連続させ、神社の森と球磨川の水をつなぎます。

[青井阿蘇神社周辺のイメージ]



あかりのキーワード

厳かさに満ちた上質なあかりの重層

[青井阿蘇神社周辺の夜間景観イメージ]

- ①国宝青井阿蘇神社の品格と歴史的価値を感じさせる神社周辺を含む夜間景観形成
- ②河川からの参道の視覚化と、エリアの安全安心の確保
- ③河川域の魅力的な夜間景観形成



○青井阿蘇神社周辺の考え方



- ・エリア内の道路は歩行者を優先とした回遊動線として高質化整備を行い、新たにできる広場や公園では公民連携事業による市民・来訪者の交流の拠点を作ります。
- ・青井阿蘇神社周辺は観光の拠点、その周辺エリアは地元的生活空間としての性格を持ちますが、国道445号では通りの一貫性を持った基盤整備を行います。

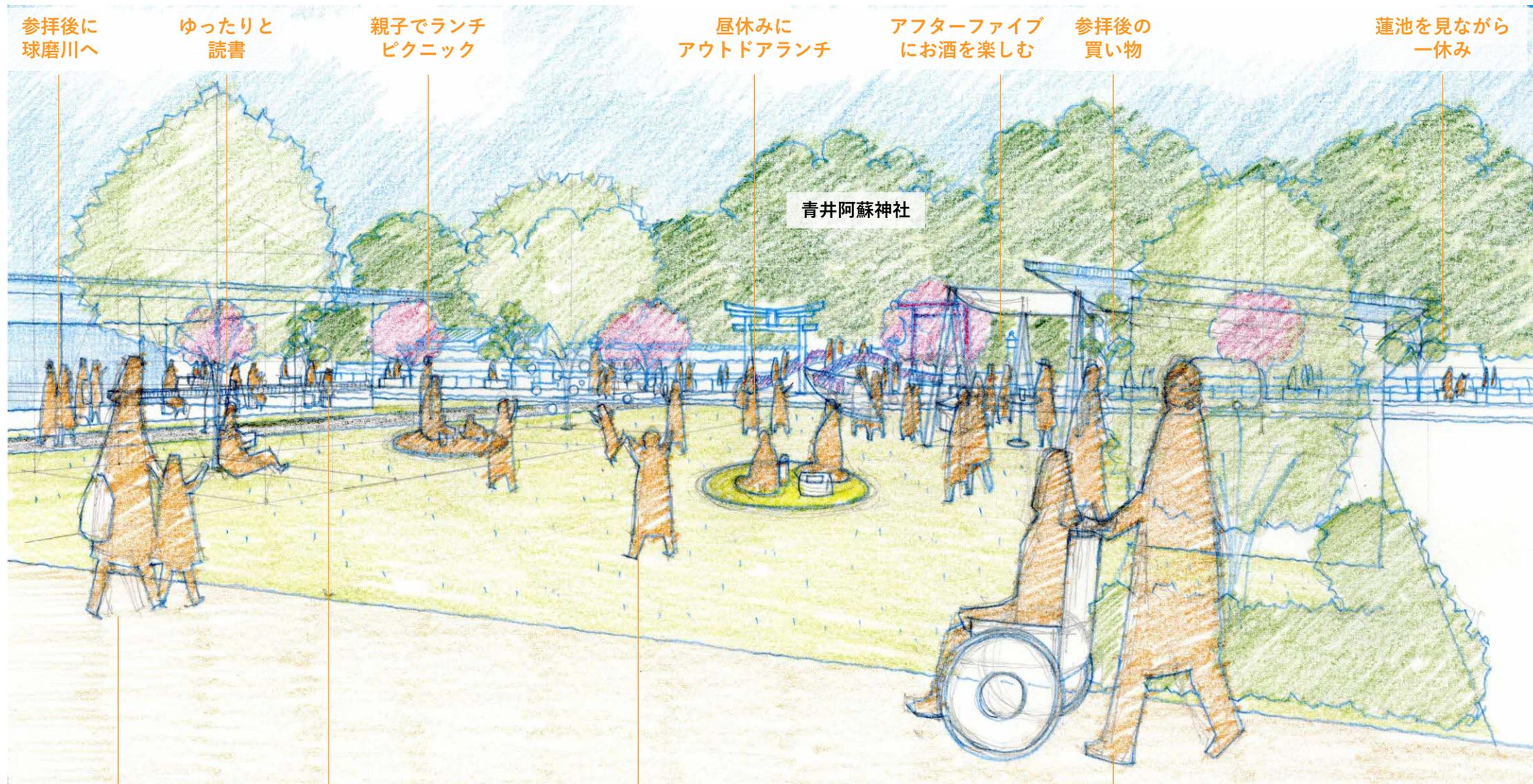
○まちづくりの3つの理念

- ①地元住民が愛し誇りを持つ“歴史・文化を際立たせる”まちづくり
- ②来訪者が歴史や暮らしの蓄積を感じ“よりまちを知りたくなる”まちづくり
- ③住民・来訪者が“共存し接点生まれる”まちづくり

○青井地区全体の道路・公園整備の考え方



[公園・広場シーンイメージ]



参拝後に
球磨川へ

ゆったりと
読書

親子でランチ
ピクニック

昼休みに
アウトドアランチ

アフターファイブ
にお酒を楽しむ

参拝後の
買い物

蓮池を見ながら
一休み

青井阿蘇神社

幼稚園帰りに
立ち寄り

歴史・文化を
体験し学ぶ

学校帰りに
友達と遊ぶ

日課の散歩

○地元市民・事業者の声

○青井阿蘇神社・歴史・文化

- ・保守と進取。守るだけではなく新しい風を吹き込んできた。古いというのは誰かが丁寧にしていけないと古さを醸し出せない。歴史はあるけれども斬新さがあることが大事である。
- ・人吉旅館は文化財として後世まで守っていききたい。
- ・高い建物はなるべく控え古い街並みをつくりたい。
- ・青井阿蘇神社は人吉の宝で「青井の杜」ができれば良い。
- ・地区の歴史文化を踏まえ神様前の門前町のイメージとして統一してはどうか。
- ・ゆっくりと歩きながら風情を楽しめる参道。
- ・球磨川まで含めた参拝コースを作る。
- ・おかげ横丁のイメージ。
- ・大宰府のように飲食やお土産等があると良い。
- ・昔の参勤交代時、神社から参道を通り球磨川から舟で出ている。
- ・元々鳥居があったため、堤防を作るときに、今の鳥居になった。参勤交代で来てお祝いで、参拝に来ていた。お祭りのときも禊をしていた。
- ・金刀比羅宮の参道は曲がっているが、中央は神様の道でありそれを避けるため曲がっている。
- ・金刀比羅宮の所は昔のように御旅所にしてはどうか。
- ・昭和38年に金刀比羅宮を移してきた。石垣は最低限残さないといけない。

○暮らしと賑わいの共存

- ・青井阿蘇神社を中心とした賑わいの部分と昔からの住民が静かに暮らしてきた質の高い住宅地が共存し、補い合うのが理想。
- ・普段もそれなりに風情がある状態が良い。
- ・地区の安全性を確保した上で、併せて賑わいにつなげるなら良い。
- ・ファミリー世帯が住みたいと思うまちづくりにしてほしい。
- ・若い人が神社周辺にお店を出すようになるとよい。

○回遊性向上

- ・人吉駅からの回遊性を図る。
- ・夜の街や球磨川沿いを明るくし回遊性を図る。
- ・青井阿蘇神社の前を石畳にして車で速く走れないようにして、人がゆったり歩けるようにする。

○憩いの空間

- ・高齢者が腰をかけて会話ができる憩いの空間があると良い。
- ・若者向けの落ち着いたお茶や話ができる場所があると良い。
- ・参拝や観光に来た方が立ち寄れる場所。

○球磨川を活かす

- ・水辺を活かした空間づくり。
- ・川の近くに子供が遊べる公園があれば良い。
- ・宿泊客が夕食後、浴衣と下駄を履き川沿いを散策できると良い。
- ・ゆっくりとくつろげ、眺めがよく、せせらぎの音を聞きながら夕涼みができるような長時間滞留できるような空間があると良い。

○観光・活用

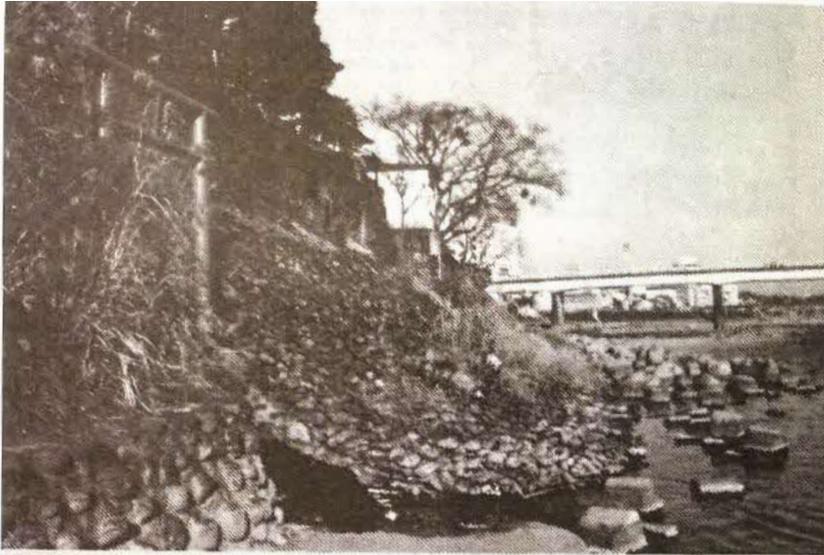
- ・楼門前に広いスペースがあれば見物客が集まり参拝者も通りやすくなる。
- ・トラック朝市などのイベントができるようなスペースがあれば良い。
- ・青井地区は観光が第一で以前以上の観光地をつくるべき。
- ・国道445号が広くなり週末戸板市のような催しができるとうまい。
- ・青井阿蘇神社という国宝を活かした経済効果に繋がることが大事。
- ・青井阿蘇神社は国宝だが身近に感じるものになってほしい。
- ・新しい賑わい拠点にバスを巡回させて、国指定文化財巡りのツアーを組むとうまいか。毎週土日だけやる。
- ・青井阿蘇神社、老神神社、永国寺をセットで回れるとうまい。
- ・人吉のインバウンドは、青井阿蘇神社に信仰目的で来てもらえるとうまい。来てもらったついでに、神社の前に施設があれば滞留時間が増える。そうすれば泊りがけで来る。
- ・青井阿蘇神社を核にして、そこから観光の道を作った方がよいのではないか。観光を残していくべきではないか。
- ・球磨川くだりのをメインのスタート地点をHASSENBAにして、途中青井阿蘇神社からも乗れる、料金は同じ、というモデルを作ると良いだろう。ただし、増水時は着岸できないという運用にすればよい。
- ・球磨川くだりでHASSENBAでスタートして青井で下りて参拝して再度乗船するプログラムは時間がかかりすぎてツアーには向かない。

○駐車場

- ・駐車場は全然足りない。神社周辺に車置いて、巡るようなものがあるとうまい。まとまった駐車場は置いたほうがよい。100台くらいは必要。

○参考イメージ

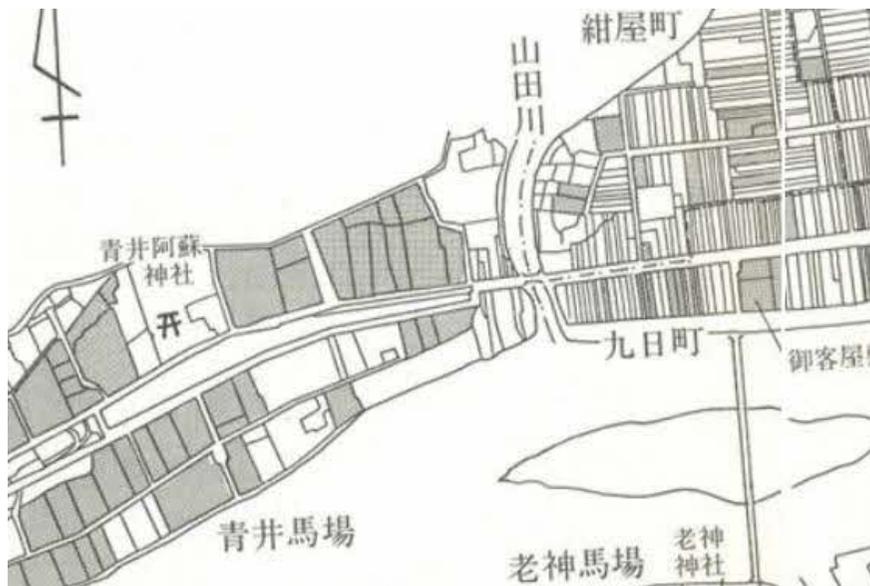
- ・かつて青井阿蘇神社付近の球磨川水際に鳥居があった



祓川の鳥居（前方は人吉橋）

出典：熊本県文化財調査報告 熊本県歴史の道調査 人吉街道

- ・青井阿蘇神社前の蓮池はかつて山田川付近までが範囲であった



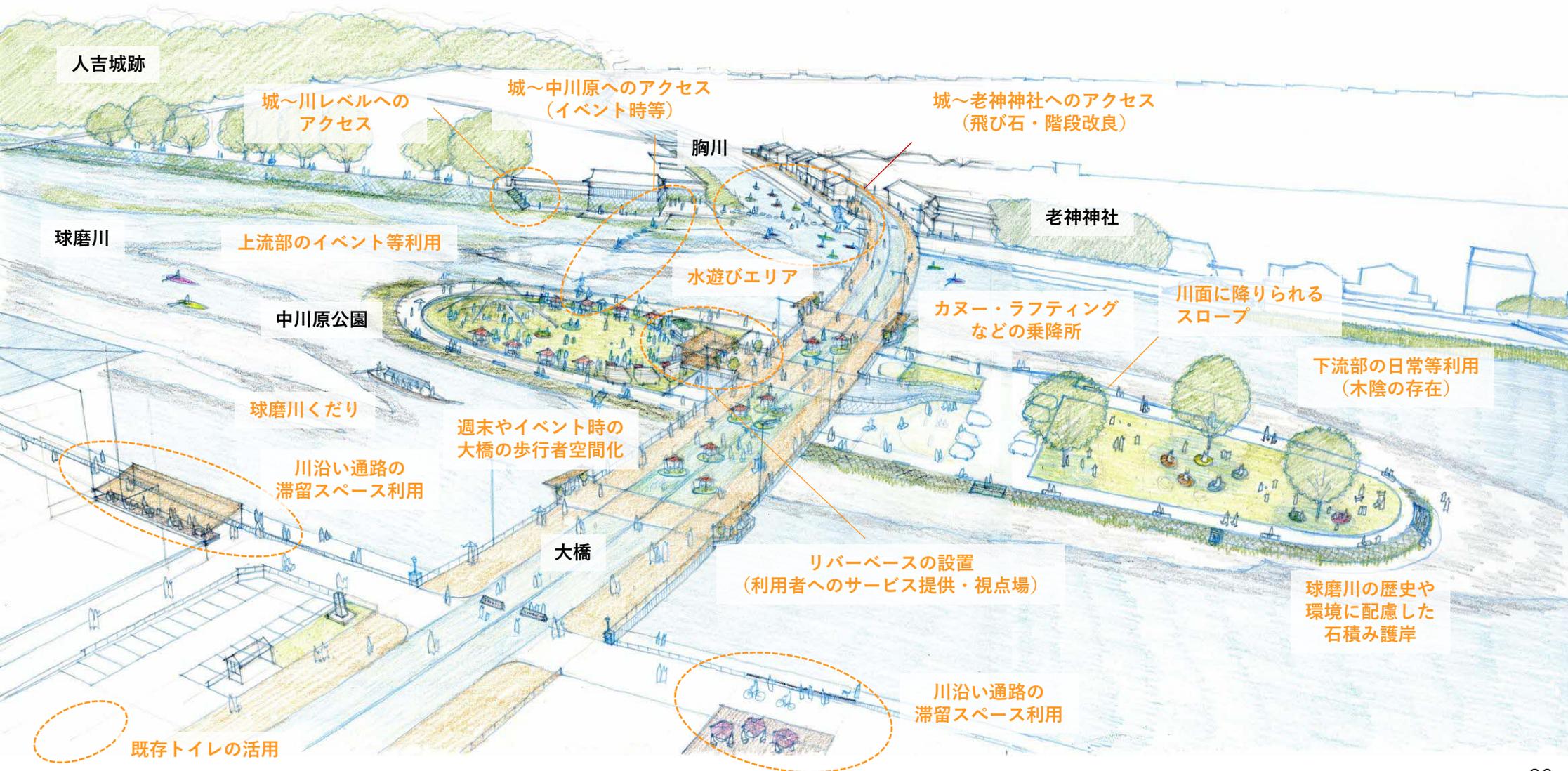
[明治6年頃の地図]

出典：桑原公德編「歴史景観の復原」

- ・中川原公園を回遊のハブ、日常の憩いの場とするため、照明や滞留空間、樹木等を設置し、**球磨川を代表する水辺空間**を演出します。
- ・日常利用を促進するため、公園利用者へ飲食やアクティビティ用具のレンタル、各種情報提供などの**サービス提供を行うリバーベース**を設けます。

- ・階段や飛び石を設けることで城跡や胸川とつながり、より川に近づきやすい環境をつくります。
- ・大橋を週末・イベント時に歩行者専用化することで、中川原公園との一体的な活用、周辺との回遊強化を図ります。
- ・球磨川右岸沿いの河川通路を沿道建物と連動して心地よい滞留空間に変え、**川や城跡を対岸から見る・見られるの関係**をつくります。

[中川原公園・大橋のイメージ]



あかりのキーワード

球磨川水辺を魅せるあかり

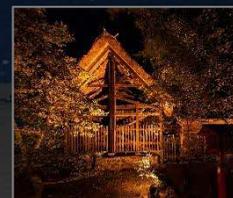
[中川原公園・大橋の夜間景観イメージ]

人吉城石垣・隅櫓・多間櫓ライトアップ
(水中照明)

河川域・ライトアップ

老神神社・境内ライトアップ (実装済み)

樹木ライトアップ



- ①球磨川右岸からの最重要夜景エリアであるため「眺めて楽しむ」エリア価値を創出する。
- ②橋梁・城跡石垣・中川原公園は重要な夜景ランドマーク
- ③中川原公園は夕刻から夜間にも静かな利活用が可能な明るさ感を確保する(橋上からの投光等)

芝生の明るさは
橋上のスポットライトポールより投光

ベンチ下間接照明
(水中照明)

樹木ライトアップ

剣先を照らす

護岸のライトアップ
(対岸からの投光)

橋上道路照明 (下方配光)

手すり間接照明
※防災アラート機能付



橋上道路照明
スポットライトポールによる投光

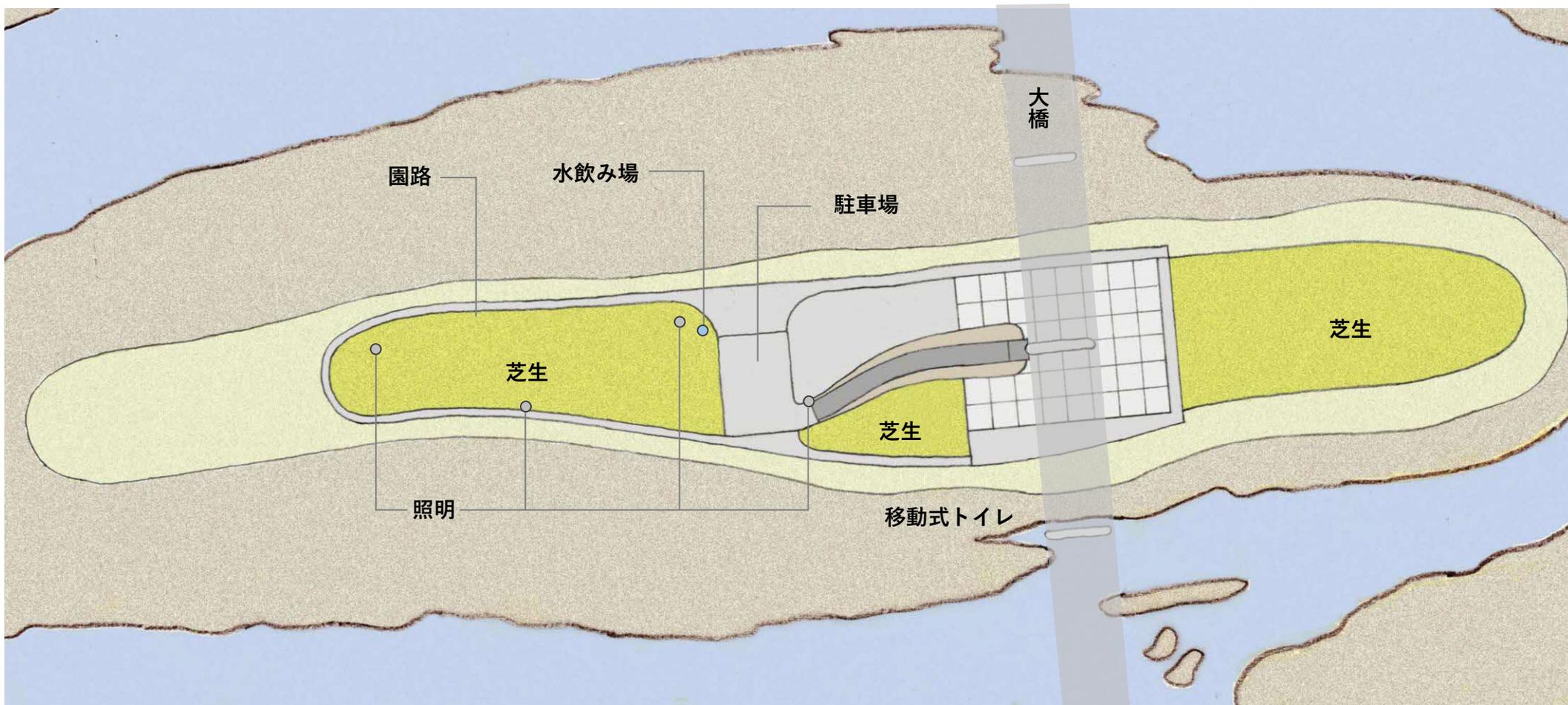


今後社会実験を重ね、将来像をつくり、追加整備&運営体制づくりを行う

中川原公園では、令和5-6年度にかけて災害復旧工事が行われており、下図のような整備が予定されています。復旧工事のため必要最低限の舗装や園路、照明等の整備となっていますが、今後さまざまな活用や滞留空間設置等の社会実験を重ね、より良い空間整備とその運営体制づくりを行っていきます。

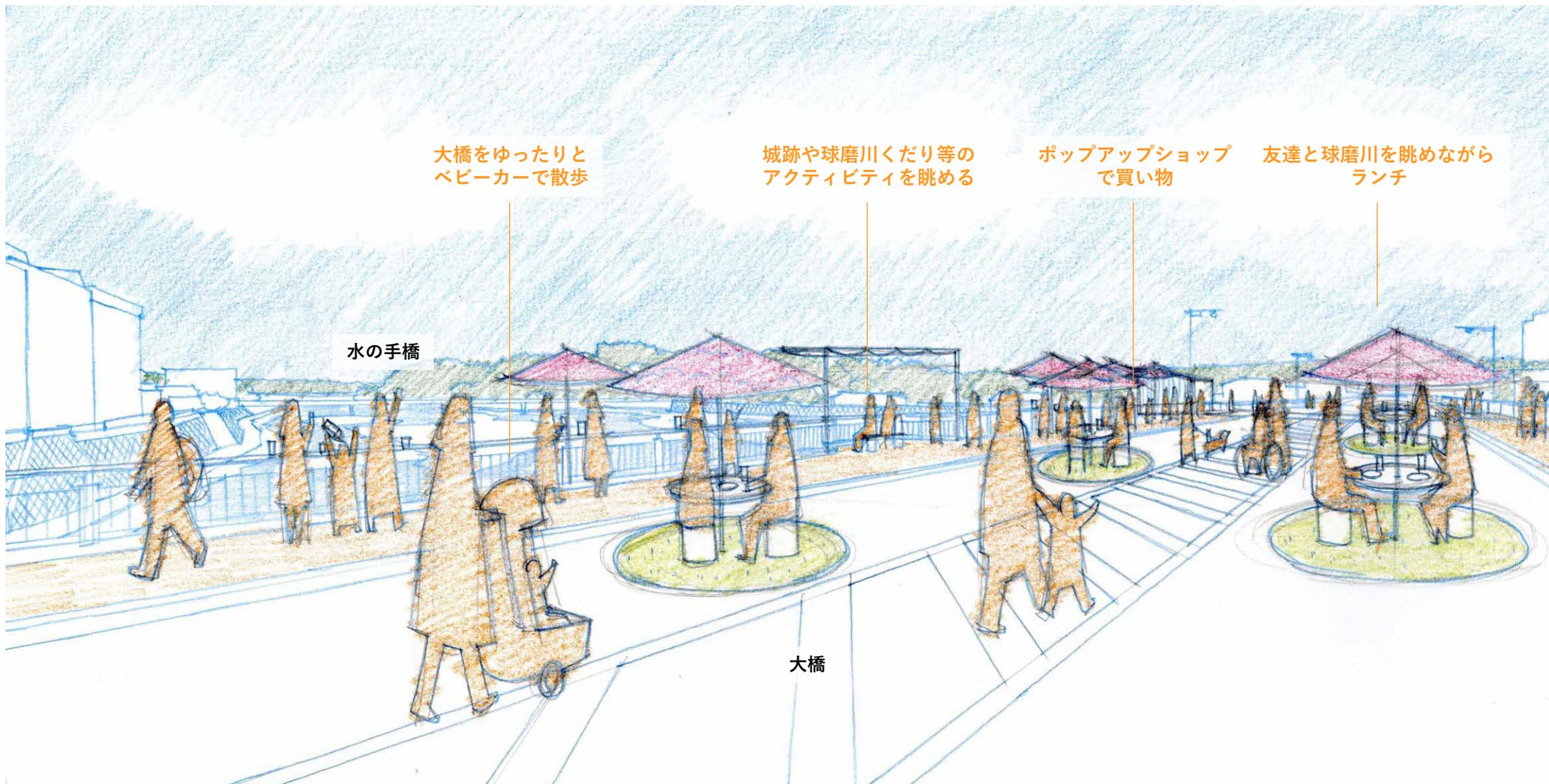


[令和5-6年度復旧工事による整備イメージ]



大橋の歩行者専用化 (イベント時、週末等)

[大橋 (歩行者天国時) シーンイメージ]



中川原公園は以前から回遊のハブであり、人吉の象徴的な場所だった。これからも大切な場所。

- ・昔から城とまちをつないでいた場所、中川原には2つの橋がかかり人がまち～中川原～城を往来していた。
- ・市民の日常時の利用の場、特別なイベントの場、最も身近な人吉を象徴する場。運動会、祭の御旅所、サーカス、花火大会など様々な使われ方。
- ・以前、田村剛博士「人吉公園計画」において、人吉の観光のメイン、地域のみでなく観光客のための公園としてあるべきと言われた場所。
- ・現代も、まち～中川原～城の往来ができ、回遊のハブとなり、最高の眺望の場を活かし、歩行者天国やリバーベースなどの装置で3つの場所をつなぐ。
- ・中川原では多様な使われ方や過ごし方を受け入れる、地域はもちろん観光客も楽しめる場に。

大橋の中間地点の場所は、現代におけるまちと城をつなぐ「全方向の眺望点」&「散策の拠点」

- ・大橋や中川原から、川の向こう4方向に、石垣がみえる人吉城、温泉旅館や商店、青井阿蘇神社、老神神社が目に入る、期待感高まる散策の拠点。

[これまでの中川原公園の使われ方]

花火大会



鮎の築場



遊具



球磨川くだり



キャンプ場



消防署



